

# 婦人供

第六卷 第二號



東京  
弘道館

香

## 謹告

本誌は、婦人教育及家庭教育、其他緊要なる各種の問題に關して、讀者諸君の質疑照會に應ず、

但返信料を要す。

本誌は又一般讀者の寄稿を歡迎す。殊に家庭の日誌、各地に於ける婦人教育幼兒保育の狀態、婦人問題、婦人兒童の遊戲、手毬歌、子守歌等に付きては、詳細なる報告を望む。但投稿は、凡べて左の規則によることす。

- 一、用紙は、白紙、字詰は、半枚十行廿二字詰、體は楷書。
- 一、一事項毎に別紙を用ひ、別口に住所氏名を記入せらるべきこと。
- 一、原稿は、一切返附せざるべし。
- 一、封書の表には、凡て婦人と子ども投稿と明記せらるべし。
- 一、投稿にして、有益と認めたる時は相當の謝意を表することあるべし。
- 一、照回は往復はがき又は返信用切手封入のこと。

## 會告

本會に御入會なされんとする方は、會則にある通り會費は一ヶ月金拾錢ですから、其割合で女子高等師範學校附屬幼稚園内フレーベル會へ向け何ヶ月分を纏めてお納めの上、申込まれますと、雑誌は常會から無代價で御送附します。會員にならないで、たい雑誌だけ買つて御讀みになりたい方は、日本橋區本石町三ノ廿三金昌堂へ御注文下さい、一冊拾錢六冊前金五拾七錢十二冊前金一圓拾錢他に郵税が一冊五厘づゝの割合です。

明治三十九年二月二日印刷  
同 年二月五日發行

不許  
複製

發行所	東京市神田區錦町一丁目十九番地
編輯者	東京市神田區錦町一丁目十九番地
印刷所	東京市神田區錦町三丁目二十五番地
印刷所	東京市神田區錦町三丁目二十五番地
發行所	女子高等師範學校附屬幼稚園内
發行所	東京市日本橋區本石町三丁目廿三番地
發賣所	金昌堂

大賣捌所 東京 東京堂●同東海信文合資會社●同北陸館

# 會告

本月十日午後一時半華族女學校附屬幼稚園に於て第四十常會相開き候間萬障御繰合せ御來會相成度候

明治三十九年二月五日

フレーベル會

天

# 幼稚園恩物

# 手工科用品

二十恩物、二十恩物以外の玩具、標本、樂器、塗板、机腰掛、其他幼稚園保育に入用の物一切三十九年一月改正の定價表御通知次第進呈す

我邦の幼稚園が今日尙津々浦々に迄行届かぬは、幼稚園事業の必要を感じぬと云ふに基くに非ずして寧ろ其設備に多くの金懸り何となく贅澤な様に見ゆるより自然建設を差控ゆる故なりと信ず、恩物を廉價に販賣するは幼稚園普及の上に極めて緊要の條件なり、小店は夙に愛に着眼し品良價廉を主義として恩物の製造に従事致居候間、大方の諸君子手工科用品の微衷を察して續々御用命あらんことを伏して希望仕候

小店製造の手工科用品は既に大阪奈良和歌山兵庫京都滋賀福井石川

静岡宮城岡山廣島徳島大分長崎福岡等の各府縣に御採用の榮を蒙りたり

定價表には尋常科高等科及び高等三四年の用品を別つ

此科に屬する諸用品一切取揃あり過般東京高等師範學校教授上原六四郎先生が兵庫縣教育會主催に係る手工講習會の講師として御西下の際にも工具材料悉皆小店の製品御採用相成『此製品にて良し』と御仰せ被下小店も大に面目を施したる次第に候承る所に依れば教育上手手工科の價値は最早論する迄も無之該手實施の學校各府縣に續出するにても利益の大なるを徴知すべく目下多數の教育家諸君は只其實施期着手順序費用等を御調査相成るのみなりと因果して然らば此際兎も角も

## 普通手工々具材料一式 (三ッ箱入)

價貳拾貳圓七拾錢

## 木工工具一式 (四ッ箱入)

價拾九圓

# 遊戲體操具

を御備付の上御實施の準備被下候様御願申上候、尤も各品一點賣も可致は勿論の事に御座候、戰後教育の方法は其途種々あるべきも就中体育に重きを置くべしとは各教育家諸君の御論に有之候、此際小生は務めて精良の体育具を供給仕るべく

候 定價表は御通知次第進呈す

旗、旗立臺、毛糸毬、布毬、ゴム毬、毬受、フットボール、同海綿入、同燈心入、布製ボール、ベイスボール、其他各種ボール、ラケット、ビンボン、投輪、投輪棒、組輪、飛繩、紙風船、引綱、運動帽、鹽鈴、鐵啞鈴、球竿、木環、棍棒、輕重自在棍棒、豆靈、クロツケイ、タリツケツト、ボツケイ、エキセルサイザ、木銃、鐵銃、背囊、擊劍道具、銃鎗道具、柔術道具、體力計器等

標本、樂器、卒業證用紙等良品價廉の主義を以て精々勉強

其他 理化學器械 可仕候間續々御用命の程願上候

大阪東區島町二丁目九十八

天真堂

清水常次郎

前付の二

讀

樓

婦人と子ども第六卷第貳號目次

卷 首

お年玉

子 ども

金の手斧

やまとの翁

なーに？

婦人と子ども

ウエルズレーの三家庭

岡田 光子

幼児の陶冶性を培養す可し

和田 實

實驗上の育兒

醫學博士

瀬川 昌耆

春の料理

石井 泰次郎

子供ねまき

村田 かめ子

婦人と親族法

太田 英隆

忙中閑語

熊

泉

上等の生活と下等の生活在米國

朝

露

生

貞一の日記

そ

の

母

幼稚園と家庭

談話と手技との結合

和

田

實

適材教育と幼稚園

伊

澤

修

幼児品評のいろいろ

五

質疑應答

數件

三

雜 報

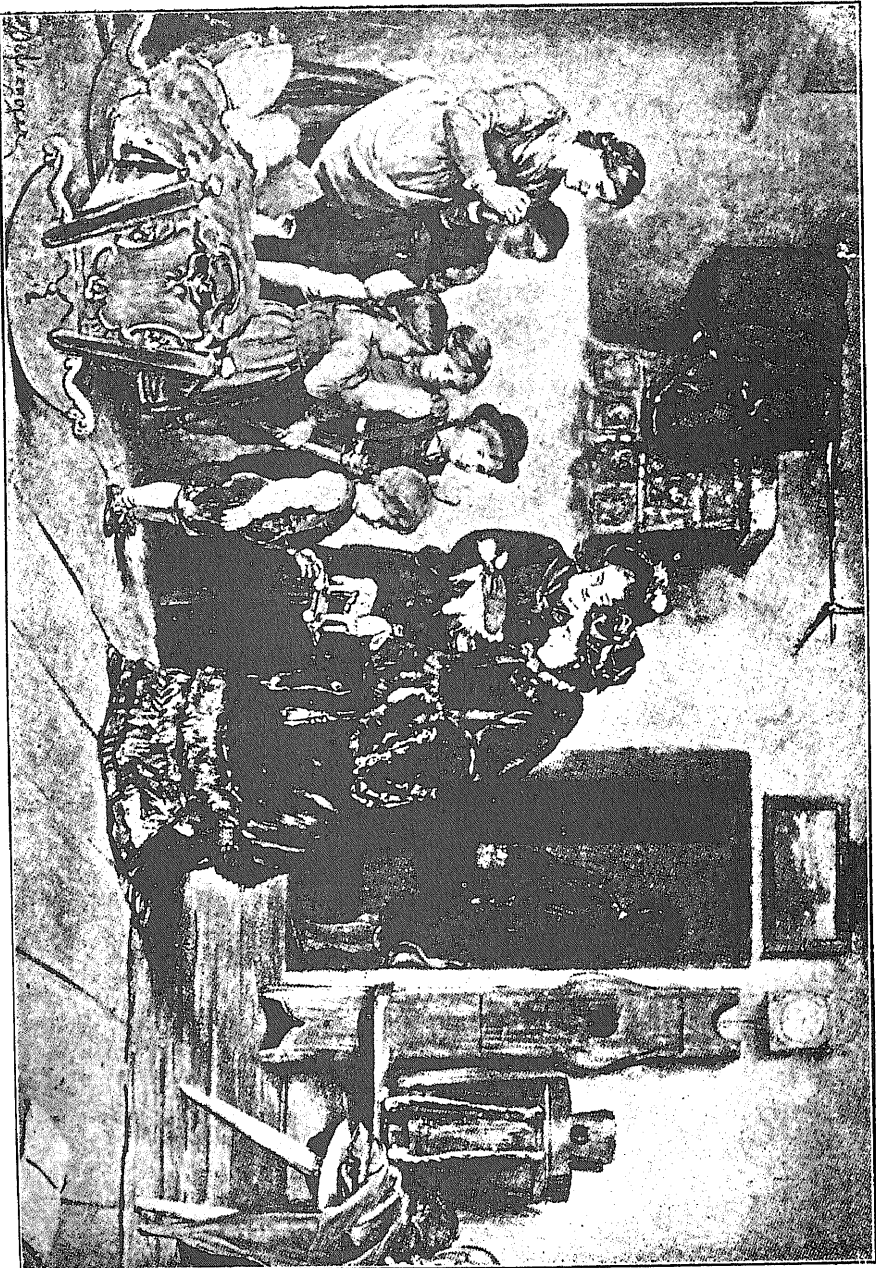
六

●ベスタロッツチ紀念會●女子大學附屬幼稚園●精華小學校附屬幼稚園●託兒場設立の計畫●東北凶歉救濟の檄●東郷大將紀念會●新年の雜誌界●新刊紹介

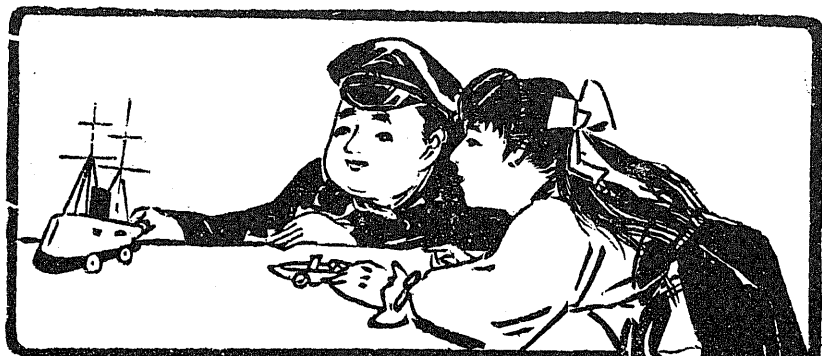
會 報

九





お馬のふちあわりがたう



# 婦人の子

## 第六卷第二號

子ども

### 金の手斧きんの手のきり

やまとの翁

むかし、まづある處に、ごくく正直な、樵夫が居りまして、たとき、毎日、山へ行つては、鐵の手斧でもって、ちよんくちよんくと木を伐つて居

りました。

二

ある日のこと、この樵夫、名前は正助といふのですが、いつもの山へ行つて、河の側で、ちんくちんくと木を伐つて居ました所が、ひよつと間ちがって、其手斧を河の中へ落としてしまいました。

手斧は重いもんですから、すぐ、ぶくくくと水の中へ沈んでしまひました。さあ、正助は、困りました。大事の大事の手斧をおとしてしまつて、もう、これから、木を伐つて働くこともできませんね、そうすると、家に居る年老つたお母さんや、小さい太郎さんや、お玉さんに御飯を食べさせて行くこともできませんから、正助はさあ、どうしたら宜いかと、いろく考へて見ましたが、



どうにもする事が出来ませぬから、一人其處に座って、泣いて居りました。

しますと、其河の中から、一人の美しいお姫様が、ぽーっと出て来て



香る

「お前、何故泣いてるの？」

といつてくれましたから、正助は

「へい、たった今大事のく手斧をこの河の底へおとしてしまひましたので、これから、木を伐ることができませぬから、家のお母さんや、弟の太郎さんや、妹のお玉さんを養つて行くことが出来ないと、どうしたもんだらうと、つらくつくしかたがないのです」

と言ひますと、お姫様は

「おや、そう？！じや泣くのはお廢し、私が今とてきて上げるから」

といつて、見て居る中に、水の中へもぐって行って、ぴか／＼する

金の手斧を取って出て来て、

「お前の落したといふのは、これなの？」

「いって見せましたので、正助は」

「いや、私のは、そんなに立派なんじゃありません」

と答へますと、お姫様は、又ぎぶっと這入って行って、今度は眞白な銀の手斧をもって出て来て、

「ではお前の落したといふのは、これ？」

「いって見せますと、正助は又」

「私のは鐵のです、そんな立派なんじゃありません」

そこで、今度目、お姫様が這入って行って、取り出して来たのは、丁度、正助の落したといふ鐵の手斧でしたから、正助は、お姫様

に大層御禮をいって、その手斧を貰ひました。すると、お姫様

六

は  
お前は、中々正直だから、この金の手斧も、銀の手斧も、私から上げませう、これを賣るとお金ができるから、それで、お母さんや、小さい子供たちを樂にさせることができませう」といふかと思ふと、奇麗なお姫様は、水の中へ消へて仕舞ひました。

それから、正助は、金と銀との手斧を賣りに行きまして、大層なお金を儲けたもんですから、お母さんや子供たちに、美しい衣服や食物や、奇麗な御本などを澤山お土産に買つて参りましたとさ。しますと、この話を聞きつけたのが、隣りの慾深老爺です。正助

の奴、甘い事をした相な、よし／＼己も一番金の手斧を貰つて來よう、と獨り考へながら、ある日のこと、其川のふちへ行つて、自分の手斧を出して、ちよいと木を伐る眞似をして、態と夫を川の中へどぶんと落してしまつて、そしてわあ／＼大聲を上げて泣いて居ました。

すると、其聲を聞いて、美しいお姫様が、片手に金の手斧を持ちながら、水の中から、出て來て、

「お老爺さん／＼お前さんの落した手斧はこれなの？」  
と見せました。お老爺さんは、「そらおいでなすつたと思ひながら、いきなり

「はい、はい／＼それが、この老爺ので」

といつて、兩手を伸ばして取りに行きますと、お姫様は、八

「あら、そうじゃない

でせう、このお老爺さ

んは嘘ばかりかし!!!

と仰つたまんま、其金

の手斧を持って、また

斧までも失つてしまひましたとさ、



水の中へ這入つて仕舞ひました。

で、この慾張老爺さんは、金の手斧を貰へなかつた許りか自分の手

めでたしく

## ◎ なーに？

此「なーに」は前の句を口唱して子供に聞かせて其品物をあてさせるのです容易に出来そうな所が幼児には適當なのであります。

- 煙を出せば出す程短くなるものなーに  
お線香
- 二本の角を出して人を乗せるものなーに  
電車
- 柱の上の鐘突き堂なーに  
ほんく時計
- お天とー様の嫌ひな足のない人なーに  
雪だるま
- 肥つてくころがるものなーに  
まわり(毬)或は雪だるま
- からいお砂糖なーに  
鹽
- 板の團扇に人形はなーに  
羽子板
- 藁の外套で立んぼーなーに  
水道共用栓





○おぼあさんの好きな赤いお團子な―に

たどん 十

○ひんく(風の音)かちく(羽子の音)双六な―に

お正月

○夜出て来て朝になるとかくれるものな―に

雨戸

○臺所の神鳴様な―に

摺り鉢

○お家をおんぶして遊ぶものな―に

まいくつぶろ

婦人と子ども



○ウエルズリーの三家庭

女子高等師範學校教授

岡 田 光 子

何か御話を申上るやうにとの中村先生なかむらせんせいよりの御依頼ごいらいが御座ございましたが、御承知ごしょうちの通り、私はあちらで英語を修きよめて参まゐりましたので、其間そのあひだ學校參觀がくかうさんかんを致いたさないではありませんが、幼稚園えいごえんは一向いっこう見て参まゐりませんでした、其話そのはなしは出来できませんが、何か家庭其他幼稚園かていそなたえいごえんに關係くわいけいあるもので宜よろしいとの御話ごはなしで御座ございますから、あちらに居ゐつて度々たびたび出入でいりをした二三にさんの家庭かていについて御話申ごはなしまをさうと存ぞんじます、併しかしもとより學生々活がくせい々かつを致いたして居ゐりましたので、交際かうさいも至いたつて狭せまかつたをですから、唯私ただわたしが見聞けんもんした家庭かていのとで、決して米國べいこく一

般の家庭のとはありません、

私は在米三年三ヶ月間ウエルズレーといふ米國東方の田舎に居りましたが、此處はボストンから十五哩許り離れて居りまして、田舎とはいへ日本の田舎とは余程趣が違ひ文明の點に於ては少しも田舎めいた所がありません、唯其閑靜な點がいかにも田舎の特徵をあらはして居るので、戸數は二三百位も御座いませうか、瀛車が電車かで町に往くと、郵便局が一つ、菓物屋仕立屋洗濯屋小間物屋等が各一二間、寺院が二つ三つ有る位で、其他は大きな芝地や、花壇、樹園、又は廣い土地をもつて居る屋敷等が、あちらこちらに散ばつて居ります、往來も極く閑かで、時々自動車乗、馬者、荷車等が通る位、雜沓すること等は殆どありません、唯此邑に似合はぬ大きな規模を有して居りますのは、二つの學校で其一つは私の居りましたカレッジ他の一つはテナホール高等女學校いづれも有名な大きい學校で御座います、それで郵便局も此學校のあるために局中でも有力なものとなり、瀛車も其爲に頻繁に出入し、村人も多くは五人とか三人とかの女學生を下宿させて生活を助けて居るといふやうに、此邑は此學校のあるために出来て居るといふて宜しいので御座います、従ひて土地一般の趣味が學者風で、夜會とか訪問とかいふて立ちさわぐともなければ、又大した金満家もなければ、補助を仰かなければならぬやうな貧乏人もないといふ、世に珍らしい村なのです、

私が今御話し申さうといふのは、此邑で模範と仰かれて居る三つの家庭で御座いますが、三軒とも著

しく其趣が違つて居て而も皆よい特徴を持つて居るので御座います。

一、セントジョン氏の家庭 第一に申上げやうと云ふのは、セントジョン氏の家庭で御座いますが、

同氏夫婦は六十前後子なく女中一人庭係一人の家族、ごく簡単な生活をして居ります同氏は幼時一文なしの赤貧者であつたので、十才の頃に靴下を編んで十銭儲うけたなど申して居りますが、長くシカゴ鐵道に關係してスツカリ財産をつくり上げ、今は廣き屋敷をかまへ、思ふやうな家を建て、樂しく餘命を送つて居るのです、斯く辛苦をつんだ人に似ず、非常な慈善家で、雷に人を樂しませたり、恵んだりする許りでなく、鳥獸までをわはれんで自ら樂んで居られます、先づ其庭に行つて見ますと林檎、薔薇、野菜、などが植ゑてあります、鳥が澤山遊びに来るので、其等のために多くの箱を樹の枝にかけて巢を作るのに便利にしてやり、又鹽に水をとつてやつて、鳥が行水をつかへる様にしてやつて居ります、馬も飼つてありますが主人自ら角砂糖等を與へて之を愛し、犬のためにも二階造の小屋等を造つてやつてあります、又ゆかりもなき憐れな小僧に人知れず外套等をつくつてやつて喜んで居ります、妻君は自分では教育のない者だといつて居りますが、好んで廣く雜誌新聞を読み、ハーバート大學生なる其甥の日曜毎に来るのを待つて、共に雜誌を読みかはすなど、間違ひながらも何事にも自己の意見を持つて居て、誰とも話して行ける人なのです、平常も樂をして行かうと思へば、幾らでも樂は出来るのですが、毎日の仕事さがさめてあつて、金曜日には夫婦で町に買物に往く事になつて居ますし、女中を外出させた

時には、自ら料理番にあたり、仕立屋を呼んだ時には、一緒になつて三日も四日も仕事をする等、至つて手輕な人で、來客なども喜んで迎へ、人と共に樂むのを何よりの樂として居りますから、とまり客の絶えた時がない程です、夫婦とも眞面目な宗教家で、日曜には必ず教會に行きますし、寺院等に對する寄附等も惜まらず致します、出入の人も皆正しき人のみで忌むべき人とは決しき交はらぬやうにして居ります、此家庭はつまり財産が充分あつて而も極く簡單に暮して居るよい例で御座いませう、

二、イーストマン氏の家庭 第二に申上げやうといふのはイーストマン氏の家庭ですが、是は前申上げた家庭とは大層趣が違つて居りまして六十以上になる姉妹の老婦人が二人、其從姉の七十以上になるのが一人都合三人の家族で珍らしいとは此三人ともミスなので御座います、身分は邑中第一でイーストマンといへば誰も知らぬ者はありません、姉妹ともとはテナホール女學校を管理して非常によい成績を擧げられたのですが、今は可成の老年になられたので然るべき人に職を譲り、今は顧問といふ名義で同校の傍に居所をかまへて居られます、此家には無暗な人は出入しませんが人は皆此家と交際するのを名譽として居ります、室内の裝飾なども、極く趣味が高尙で、一として矢鱈なものはありません、且つ家族間の優さしくして親切に、坐作進退の上品にして作法ある、來客をして自然と禮儀を考へさせるといふ風で、米國には先づ珍らしい家なのです、智徳共に高く世の中の事にも廣く通じて居りますから、來客との話なども中々面白いですが、人は皆あの人々の口から他人の惡評をしたのを聞いた事がな

いと申して居ります、修養の結果で御座いますか。

ラザレー氏の家庭 次はラザレー氏の家庭で御座いますが、此うちはイーストマン氏のうちの一間

いて隣りです、先づ鈴を鳴して此家を音づれますならば、中からは誰が出て来るか解りません玄關に立

て聞いて居ると家内の賑はしさ一通りではありません、切案内について入つて行きますと、中央の一間

ピアノの所には少女が歌ひ、傍のソファーには青年が數輩樂しげに語り、向ふのフアイヤブリースの前

には、大人しき老人が靜かに何か考へて居るといふやうな、一見ごく亂脈なやうなうちに御座います、

家族は夫婦と夫の老母と子供五人、長男は三十前後で父と同職につき、長女は二十四五で高等女學校卒

業後家庭に居つて自分の好める家事の手傳をし、次男はエール大學の森林科に入り、次女は十五六才で

すが今年大學に入りました、末の子は十才位な女の兒です所で此の次女といふのが、大變面白い子で私

とよく話しましたが、非常に文才があつて毎年自分で脚本を作り、ちやんと臺詞をつけ、舞臺の趣向から、

仕度のところから、獨りで考へて、毎年十一月頃、澤山の客を呼んで、二十錢位な會費をとつて、芝居をし

て見せます、いつかのクリスマスに此の子が人形をつかふといひますから、往つて見ましたら、例の通

りお客をして姉さんにかけて脚本を讀んでもらつて、自分は男女さまざまな人形を巧みにあやつり、な

かなか立派にしあげました、行儀がよいとか上品とかいふではありませんがさつぱりとした愉快な趣味

のある子で、歸國前私が學校の舞踏會が見たいから案内してくれなど申しました時にも、何から何まで

其れはよく氣をくばつて、世話をして呉れましたが、今年ことしは文科大學ぶんくわいだいがくに入はいれたのでお母さんおかあも大層なまじよろこんで望のぞみを屬ぞくして居ります、

祖母さんといふは、九十に近い老人で優やさしさうな上品じやうひんな人ですが、衰おはれたことには盲目もうもくで何時もたく火ひに手をかざして考へがちに暮くして居ます、孫まごの聲こゑは聞えるけれどもどんなに大きくなつたか解わからないなと申して居りましたのに、近日きんじつまた耳みみが遠とほくなりましてきくとさへも不自由ふじゆうになりましたが、大層たいそう忍耐にんたい強いので少しも不平ふへいさうな顔色かほいろもなく、私わたしなどが訪ねてゆきますと、何時家いつうちからたよりがあつたか、両親しんせうは御丈夫ごぢやうぶかと、何時も親切しんせつに問ふてくれ、昔語ひかしがたりなどをして聞かしてくれ、盲目もうもくでいかにもつまらなさうなのに、何時も一人で二階にかいを上り下りして、寢具しんぐの用意よういも、衣服いふくの着かへも、皆自分みなじぶんでします、二三年前ねんぜんから先生せんせいをやとひて、凸字とつじを習ひ、盲人もうじんの讀本とくほんを買かつて、指先ゆびさきでもつてワシントンとかチルソンとかの傳でんをよみ、また自分で詩しなどを作つてよろこんで居ります、今年ことし丈だけの命いのちかと思ふので別莊べつぢやうに對する別れの詩を作つたと申しますから、紀念きねんに頂いたいてをきたいと申しましたら、何あなのために別に訣わかれの詩をよみませうといつて、送別そうべつの詩を口ずさみ、孫にかゝせてよこされました、前後ぜんごに申上げたいのはミセスラサレーで、此この人は又大層またなまじな活動家くわつどうかで、市場いちやうに買出しかひだに行くと、仕立屋しだてやを呼んで仕事しごとをする、邑中むらぢゆうの人を呼んで茶話會さわくわいをする、五人の子供ごどもの教育けういくをする、等皆一手ちみなに引受けて少しもたいぎな様子ようすもなく、子供なども幼き時より、昔話むかしばなしをよく讀ませて、文學趣味ぶんがくしゆみを養つてや

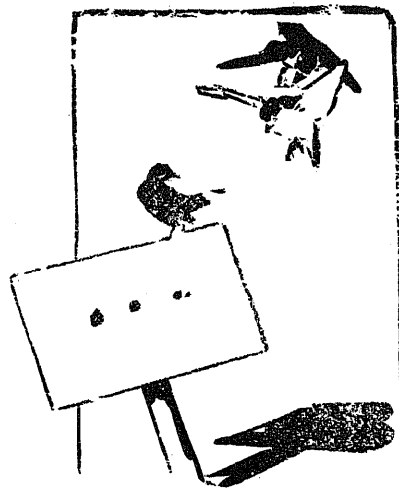


るなど申して、藏書なども大部あるらしく、始終貸して呉れました、イースターヴエケーションには、家族を残し話合手となる、友人を相携へて、必ず旅行をいたします、一昨年は私も其の仲間になつて六人ぞろひで、ワシントンに参りました、旅の間にはよく市場に行つて其の土地の人情を察し、又大きな寺の建築とか裁判所とかを見にまゐります、普通の人の見物の仕かたとは一寸違つて居ります、俱樂部にもよく出席しますので大學のセクスピアの研究會の會員ともなつて居ります、婦人同志で拵へて居る金曜會にも必ず出席をいたします、此の會は毎金曜日に午前十時から十二時まで、番に當つた一會員の宅に集つて、何か持つてゐつた仕事をしながら、新版の書物等を輪讀しながら、懇信の目的をとげるのです、子供の誕生の日などには、其の子の望みに應じてやるゝて、或る日の如きは男の子と一緒に朝から晩まで、ボストン中其子の望む所に行つてやつたなど申して居ります、クリスマスの日にも、澤山の人が自ら集つて來て、盛んな會合が出来ますし、時々自宅で文學會などを開き、知己の學生、其の他有志者を集めて、其の作を讀みあげしめ、審判官をさめて賞品を出すなど、面白いのんきなことを、多忙の中によくやります、誠によく話す人で御座います、

大ぶ長くなりましたが以上三家庭をついで申しますならば第一のセントジョン氏の家庭は金持でよくやつて居るので、第二のイーストマン氏のは徳でおさまり最後のラザレー氏のうちは威厳とか氣品とかはありませんが愉快に人を歓迎するといふ特色をもつて居るので御座います、

此の様な面白い愉快な家庭の此の邑に多く御座いますのは、一つは社交上六ヶ敷いきまりがなく、着物なども、何でなければならぬとか、訪問時間外には十五分以上人をわづらはしてはいけないとかいふ四角ばつたものがなく、ひまがあれば朝でも晩でも手輕な服装で訪問の出來ると、二つには土産とか贈物とかいふものはクリスマス以外には殆んどしない、例令するにしても庭の花とか畑の果物とかにすぎないので、時には目錄式やつて置いて品物はあとで出來上つてからやるといふ風に生活が極く單純なのと三つには毎日の仕事にきまりがあると、四つには衣食住のとはなるべく便利よく簡單になるべく短時間でしあげ、餘りの時間を甘くつかつて、家庭を詩的にするとつとめて居るからであります、カレーの卒業式に或る人が教育をうけた婦人の第一のつとめは、毎日の生活を趣味ある高尚優美なものとするにあると、申されましたが、實に尤なると存じます、あまり長話をいたしました。





# 幼児の陶冶性を培養すべし

和田 實

「水は方圓の器に従ふ」と云ふ諺に間違はありませんが、併し如何に水だからとて若し器の方又は圓に従つて、其形を變へると云ふ性質を備へて居なければ、圓いものに入つたから必ず圓くなると云ふわけには行きませまい、之と等しく兒童も善

惡の友や、師父の感化如何に依て善人ともなり、惡人ともなりますが、然りとて子供に此の如く外界の影響を受け入るゝ性質がなくなれば、決して斯様な發展を遂ぐるとはありません、子供は斯様に外界の影響を受入れるゝ性質を有して居ります、此性質が即ち陶冶性と云はれるものであります、此陶冶性は子供の幼き時に最も盛んで、壯年に及ぶに従つて漸次減少して行きますが、教育を行ふ間は成るべく此性能を盛に活動させて置かなければなりません、然るに行き届かぬ家庭の子供を見ると、何れも種々の方面から此性能が破壊されて居りますから、保姆や教師の云ふ事も聞かず、友達との制裁をも恐れず、動もすれば教育に反對の決果を生ぜしめんとするのであります、幼稚園や小學校では殊に此點に注意して其を損ぜぬ様として益

之を培養しなければなりません、殊に兒童の徳性の基礎となるべき次の三事項は、此時期に教育しなければ後來逆も回復の望がありません、

一 倚頼信任の情を永續せしむるを

兒童は其本性として常に大人に倚頼し其言行に信任するものです、殊に保姆教師に對しては此情特に厚さを例とします、従つて、兒童は保姆や教師の教誡に従順し、其言行に模倣して進歩するを得るものです、兒童に此情の存する中は、能く他の長所を取り入れ、訓誡に應じて益々進歩修養の効があります、けれども若し此情が一旦兒童の胸中を去つたならば、我意が徒らに強固になつて師友の感化も其甲斐なく、修養時代に於ける唯一の良性たる「從順」の徳は、遂に兒童の身邊を去りて再び來るとがなくなり、人或は兒童の有する

此倚頼心を、早く失はせるのを以て、教育の任務であるかの如くに思惟するものがあります、勿論依頼心と云ふものは、右に述べたる倚頼信任の性能から分派し發生した惡性には、相違ないですが然りとて此倚頼信任の情と云ふものがなかつたら子供を逆も教育するとは出来ません、然るに考のない家庭では、態々子供の前で教師や保姆の惡口を云つたり親自身が信任されない様な言行を示すので、子供は早くから此良性を失ふ様になります、丁度故意に早く教育し惡い様に自らして居る様なものです

二 眞面目なる意氣を害す可からず

兒童は極めて眞面目なものです、兒童の滑稽も諧謔も皆故意に出づるにはあらで、全然眞面目になさるゝものです、そして此眞面目が即ち後來精意

誠神を以て事に當ると云ふ意氣の生ずる根本なので誠に大切なる萌芽であります、子供を尊敬し大切に扱ふ人は、此邊の具合を能く承知して居ます、世人の多くは誠に心なき遣り方で、或は子供を愚弄したり、馬鹿にしたり、からかつたり、冷かししたりするので、可惜子供を損するとがあまりです、一人人間は眞面目に考へればこそ、圓滿なる生活とか、家庭の和樂とかを望むのですが、若し不眞面目で差支ないとしたら、何も齷齪とせち辛い世の中に働くとも要らない事だらうと思ふです、世の浮浪人や無頼漢の多くは、皆無眞面目な考がないから哀れな境遇に陥つて居るので、又此度の戦に日本の勝ち露國の負けたのも、双方の國民に此氣風の優り劣りがあつたからと思ひます、實に我國民殊に陸海の軍人が彼日清戦争以來、其眞

面目に軍事の發達に努めた事と云つたら一通りではなかつたので、今度の戦勝は決して偶然ではありませんが、西洋人も日本人の眞面目なものには實際感心して居るそうです、誠に尤の事で、個人としても、眞面目の人でなければ、逆も世渡りに成功する事は、出来ません、況して是から修養の道に出立しやうとする兒童に、此氣風を欠かせるやうでは、逆も／＼將來の見込は立ちません、三修養慾を培養す可し學ぶ事と遊ぶとを結合して、不知不識の中に教育をして行かうと云ふ事は、幼稚園教育の主眼でもあります、誠に結構ではありますが、是は程度のゐる事で或程度以上になると、逆も學ぶとと遊ぶとは、同様には見られませんが、矢張學ぶ事とは遊ぶ事よりは苦痛の多いものであります、其苦痛

に打克つても、益修養して行かうと云ふには、可なりの努力を要するものですから、此努力を多々益辨じ得る様に、兒童の修養慾を涵養して置くとは大切な準備であります、如何に兒童心身の活力が盛であつても、其修養慾が適當に培養してなければ、勉學上に努力を集中する勇氣は起りません、故に「東郷大將になりたい、大山大將とならん」など云ふ子供の欲望を利用して、其欲望を達せんには修養の必要なると、其修養には多くの忍耐努力を要するを、漸次悟了する様に仕向けなければなりません。



## 實驗上の育兒 (ついで)

醫學博士 瀨川昌耆君述

### 生兒の抱き方

▲脊中を打托こと 生兒を抱いて搖る事が既に

悪ければ夫れと稍相似たる仕方では生兒を抱いて脊中を打托事の習慣がある爾うすると生兒は泣いて居ても次第に泣止んで仕舞ひます、此の習慣は發育上如何なる影響を及ぼすかと云へば之れは抱いて搖る程の弊害は無い、餘り強く、永く打托ては甚だ宜しくないが靜に、輕く言はゞ守唄の相の拍子に叩く位なら先づ差支へないのです

▲抱き布團にて抱くべし 一体生兒の腰から下

は襁褓を幾重にも厚く捲いてあるし、身体の上半部はシヨール杯で纏むもの、スルと生兒は襁褓やシヨール杯に支へられ何うやら斯うやら眞直の形

になるが爾うなつた處で脊髓や首が眞直に立つ氣遣ひはないのです、然るに生兒の抱き方を見る處往々眞直に抱いて居ます能く注意して御覽なさい世間には必ず多くある例ですから……第一生兒には立つ丈の力なき者夫れを衣服やショールや襦袢の力で支へさせ立て眞直に抱と遂に生兒は不具の發育を見るに至ることがある、ナニシロ生兒の身体はグニャ／＼した取とまりのないやうなものだから如斯生兒を抱くには必ず布團を作つて其上へ乗て抱くやうにしたい

▲抱き布團の拵へ方 此抱き布團の拵へ方をお話し致さう、之れは木綿巾で長さ三尺位にし中には、古綿か左もななくば軟らかい藁の類を入れても可いので極く緊乎した、餘りグタ／＼仕ないやうな布團を作るのです、爾うして其の長さ三分一位

の處即ち一尺程は折返す事の出来るやうにし、其折返した一尺の四隅へは適宜の長さに紐を附けて置くのです、先づ抱き布團の拵へ方は之れで解りになつたでせう

▲抱き方 其の拵へ方がお解りになつたら何うして生兒を此布團で抱くものか其の抱き方に移りませう、ソコで生兒は紐の附いた一尺位折返しの出來た方へ足を向けて長いなりに仰向けに寢せ、其上で布團の裾を折目の處から折返して小兒を被ひ四筋の紐をグルリと布團の後ろへ廻し丁度生兒の背面のあたりで結ぶのですが、斯うすれば生兒は布團の力で前後を支へられ抱くにも身体が緊乎します夏でも冬でも此布團はお用ひなさい

▲襖掛けで脊負ふ害 此の抱き布團で抱くにも横に抱いて頭部を高さ加減になし、生兒の脊へは



必ず手を掛けて支へて抱き、決して輕々しく抱いてはならぬ、尙生兒を背負ふ事は甚だ宜しくない綾掛けに背負れた生兒は首が拔出しさうになつて居る憐れな姿を見たら茲に説明する迄もなく其の弊害を認められるであらう

剃髪とお灸

▲何故頭髪を剃るか 私は是れ迄親達や保育者の處置法に氣を注げて見ますと生兒の取扱ひには随分種々な惡い爲にならぬ習慣があつて「ア、云ふ事は止て貰ひたいかと眉を擧める事があります、誰人も御存でせうが生兒の頭髪を剃ると云ふは古より一種の習慣で産毛の儘で置くのは割合に極く尠ないのです、爾うして剃る口實は『産毛で置けば生兒が逆上て宜けません』と是れは万口一致した言草になつて居ます、昔は醫者の誤解から

或は爾う考へ其の習慣が改まらずに剃る方が可いとなつて夫れが親々の頭裏へ泌みこんだから誰れでも生れた兒は必ず剃る事と固く信じた、夫れから『産毛は不淨だから剃るものだ』と之れも一種の迷信から斯んな説を來たしたのであらう故に舊産婆でも頼むと生兒の髪毛は無暗に剃つて仕舞ふ殊に産毛を剃らぬと良い頭髮が生へぬと斯う信じて居つたものです

▲道理なき説 産毛を剃らぬと逆上ると云ふが實驗上剃らぬから逆上ると云ふ事は無い、夫れが證據には剃つて置き乍ら頭巾を被せるではありませんか逆上るから剃るものなら頭巾を被せる必要はあるまい、又産毛は不淨と云ふが毎日湯を浴はせる時に石鹼で奇麗に洗つて遣れば何も不淨な事はないし剃れば良き髪毛が生へると云へど産毛は

決して永く其儘にあるものではない、之れは次第に追々と良き髪毛とぬけかはつて仕舞ふもの強ち剃るには及ばないのです

▲頭髪の効力 斯う申したら頭髪を剃る効能は一ツも無い、然らば産毛の儘で置けば何ういふ利益があるかと云ふに第一頭部を器械的に保護するので、少し位物に打觸てもアノ軟かい固まら無い頭部を傷ける事が少ないのです、私が言ふ迄も無く頭部は大切なればこそ骨や毛髪で裏んで居のでありませんか、第二には頭部に受くる冷熱を防禦するのです、髪毛を剃つたら冷熱は直接に感ずるが髪毛のお蔭で之を防ぐので冬季の嚴寒、夏季の酷熱、斯ういふ場合に何れ程毛髪が頭部を保護するか知れない夫れを考へてもムザ／＼生兒を剃髪する事は出来まいと信じる

▲灸の害 頭髪を剃る惡弊と共に眉毛まで剃る剃刀序に眉毛を落すのでせうが生すべきものを剃るのは之れも奇習の一ツです、次に「灸を据へて丈夫にする」と云ふが初生兒に此の様な熱い思ひをさせるは何んと云ふ慘酷なこととせう臍の邊へ灸を据へると俗に云ふ虫が起らぬとか或は臍突にならぬとか云ふが、却つて灸の爲め急性の痙攣など引起し「ひきつける」やうな事を起さぬとも限りませぬ、灸を据へぬとて虫も起らず臍突にもならぬから開んな理由無き心配をするより悪い習慣を取除くやうにしたいものです

## 黄 疸

▲皮膚が黄色になる 生兒の育て方は實に困難なもので一寸でも油斷すると色々な故障の起り易きものだ茲に一種の生理的狀態から親達を驚か

せることがある、夫れは生後五六日目から十日前後に發するので身体の皮膚は悉く黃色を帯び生れたときとは全然皮膚の狀態が變るから何んな病氣が起つたのだらうと周章狼狽して大心配をするもの、併し左のみ驚くに及ばぬことで之れは黃疸と稱するのです、西洋の統計を調べて見ると随分多いが日本でもナカ／＼多く見受けます

▲是れを黃疸と稱す 一体黃疸は今も述べた通り生理的作用によつて起る一種の狀態なれば別に病氣と云つて騒ぐ程の事は無いのです多くの産兒は稍ともすると斯んな狀態になるが、之れは其の儘に打捨て、平素の取扱ひ通りになさい爾うする内に追々舊に復し皮膚は素通りの色になる故親達や側に居る經驗乏しき保育者が心配のあまり保育の取扱ひを疎漫にでもすると却つて夫れが害にな

ります、去れども餘り烈しくなつて生兒の機嫌が悪いやうなら醫師の診斷を仰ぐのが適當の處置と信ずる

▲初生兒より哺乳兒 初生兒時代の保育法は以上述べ來りし如き順序であります、初生兒時代とは前にも申した通り生後二週間位迄を云ふので臍帶が落ちて其の傷の癒へる頃までの間である先づ此の初生兒時代を無恙通り越し、生兒の身体に異狀なく健康であつたら次に來るべき哺乳兒時代に移らなければならぬ

#### ▲哺乳兒時代

▲此時代の解釋 哺乳兒時代とは何時ごろまでを指して謂ふかお咄しの順序として夫から説明いたしませう、之れは初生兒時代から一年間位を申すので、此時代の保育は實に六ヶ敷ものでありま

す、小兒が發育を誤つて一番多く死亡するのは此の哺乳兒時代であります、之れを考へても親達の丹精は實に容易なものでない、可愛盛りの哺乳兒が健全に育つか、或は不幸にして斃れるか、寢食を忘れ、慈愛のありたけを捧げて育てなければ哺乳兒は完全に發育するものでない

▲健康なる標準 哺乳兒發育の狀態即ち健康なる哺乳兒の標準を知つて置く事は先づ第一に必要なであり、此時代には身体も精神もズン／＼上進して育つものであるが虚弱か、健康かを識別するに就いて、健康なる哺乳兒なら身体が大きく成長するし爾うして体量が増殖る、併し丈の高くなるのは健康の上に左のみ必要なく、夫れよりは体量即ち目方の増殖るのが最も必要である、目方が増殖ても其目方の増殖方が一定の規則に缺け一定の量

に達せざれば不健康と見做なければならぬが、此の体量の事は頗る大切な問題故次に詳しく申上げやう

#### 健康兒の標準

▲増量一定の標準 哺乳兒時代は保育が尤も困難で、一番死亡するのも此時代であるが、又一番發育の早いのも此時代である、健康か虚弱かは一定の増量を標準とし、其標準より体量が少なくなれば其の哺乳兒は虚弱と見做し、一應専門醫に相談しなければならぬまい、去れど一定の標準より体量が少なからざれば其の哺乳兒は健康兒であります、初茲で体量増加の一定の標準をお話し致さう、健康なる哺乳兒なら、生後半ケ年即ち六ケ月目には生れた時の目方の丁度二倍になります、一ケ年即ち十二ケ月目には、生れた時の目方の三倍に達す

るもの、夫れ故出生の際生兒の体量を量つて置くのは其の小兒の將來健全けんをトするに尤も大切な事ではありませんか、デ若し此の標準より尠き目方なら全く發育不充分と推斷しなければなるまい夫れから尙其の小兒が六歳に及んで満一歳の体量の倍になり十四歳の年齢には満六歳の倍になる、此の標準をも記憶し置くは大切なことである

▲發育不良の生兒 併し發育の良き哺乳兒は六

ヶ月目に達せずとも四ヶ月目位で出生した時の体量の倍に達することもある、之は頗る健康兒の徴候と祝さなければならぬのです、ケレども發育の順序には種々な變則のあるもので生れた時發育が悪いからとて決して落膽するには及ばぬ、私の實驗上に斯ういふ話の種があります、現に私の子供でしたが生れた時は所謂假死の生体で、息は絶

えて居つたのです、けれども何うか救からぬ事もあるまいと人工蘇生術をもつて漸く呼吸を吹返へさせたがナニしろ斯ういふ次第であるから、其當時は發育も不良で、生体も至極小さかつたのです斯んな有様でも是迄の例によつて健康兒とならぬことはないと一生懸命で大切に、注意して保育したら其結果遂に生後四ヶ月目にして、出生當時の体量の倍に達しピン／＼した丈夫な兒になりました、斯ういふ例もありますから、生れた時發育不良なりとて總て育て方一ツと心得て貰ひたい

▲体量を量れ 健康なる哺乳兒の体量は日々に増加するもの故、少なくとも、一週間に一度とか、又は二週間に一度は必ず体量を量つて見るのは保育上是非實行されたいものです、万一其都度々々に増量しなければ、必ず哺乳兒の身体に缺點があ

るとか或は育兒の方法が悪いとか、何か素人には分らずとも病氣がある事と推定しなければならぬ斯ういふ推定を下し得るのも要するに手数をかけて体量を量ることの賜で、若し体量を量らずに置けば容易く之を發見することが出來ず、其兒が甚しき衰弱とか、發病するとかして後大騒ぎするやうになる、斯る面倒を懸けるは哺乳兒の健康上の爲め故是非体量を量ることを親々が實行されるやうにしたい

(つゝ)

## 春の料理

石井泰次郎

これはさばめて初春の料理としてには有らねど、たい、雪の色、梅の香の題意によりて、つくりたるものなり

◎茶巾ゆりねのこしらへかた

〔原料〕百合根五合、かつほだし一合、みりん二勺、砂糖二十勺、醬油三勺

ゆりの新らしきを、うらの根の所を、小刀にてえぐりととりて、あとを悪しき所を剥ぎ去り、一枚づゝにし、水にて洗ひ、湯鍋に入れ、十分間余湯煮して、箸にとりあげ、雫を切て鍋に入れ、かつを煎汁、みりん、砂糖、醬油を合せ入れて、煮るべし

さて煮えたるを取上げ、馬尾篩にて、裏漉に、木杓子にて押て漉し、それを布巾に包みて、茶巾形につくるなり、茶巾形とは、丸く包みて、包みたる上の方を捻りて右の手にて固く持ち、右手の五指の元の方に、其裏を押付て平たくし、冷に其くはみたる所を大指の先の腹にあて、向くばまし

て、布巾をそつと取り出したるをいふなり  
其上へ白糖をばらりとかけ、雪のふりし如くなす

◎梅花百合根の拵へ方

(原料)百合根大二つ、砂糖二五匁、水一合、  
みりん四勺、鹽五分、

百合根を洗ひ、かたき所をくりとり、一枚づゝにして大きなを、薄刃庖丁刀にて、ふちをむきさて、湯鍋に入れ、ざつと湯煮して、取わけ、鍋に入れ砂糖、水、みりんと鹽を加へて煮て取上げ皿に並べ、其上に、梅びしほを、中によせて、一つ盛り置くなり、其盛方圖の如し



梅びしほの拵方は次の如し

◎梅びしほの拵方

(原料)梅干の肉十五匁、砂糖二十匁、紅(細工紅の生上味)五分、みりん二勺

梅干のたねをぬきさて(鹽つよき時は湯に入れ、すぐ取出して用ふべし)馬尾篩にて、木杓子を以て押漉に、こして皿に取り、鍋に入れ、砂糖とみりんとを合せて炭火にかけ、木杓子にてねり、おろして紅をまぜて、色を作るなり  
甘ざと色とは好によりて、拵へてよし

花の咲く

木はいそがしき

二月 識

(支考)

# 小兒寢衣(五六才)

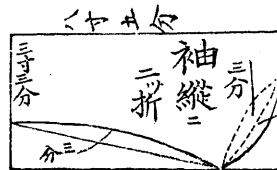
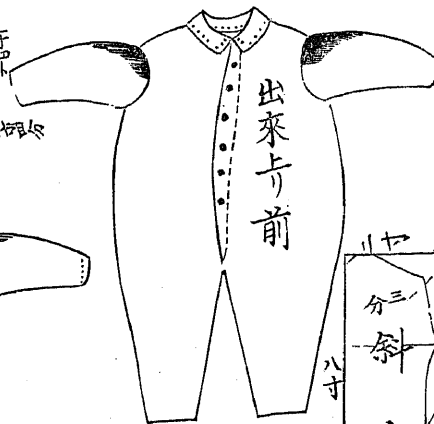
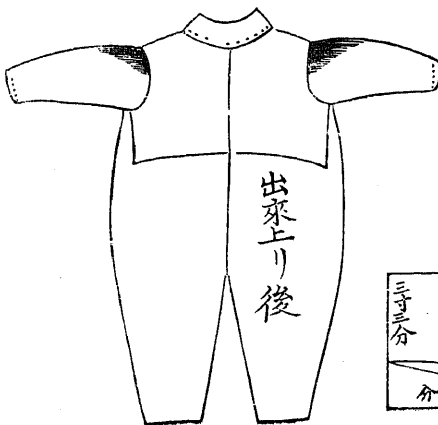
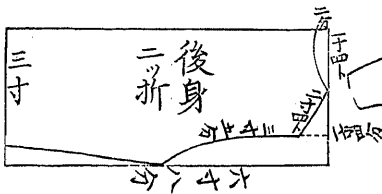
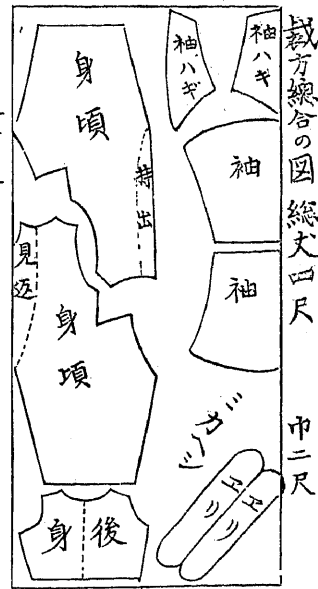
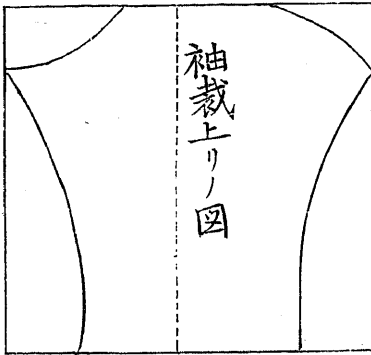
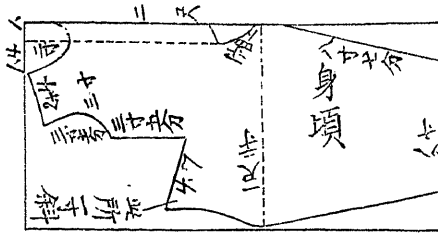
村田 かめ子

此頃は、寒くなつてまゐりまして、よく風邪をする人が澤山になりました、殊に小供は、寢冷をしてそれが爲に風邪をする事が甚だしいので、どうかして、よい寢巻をと考へました、此度こんなものと思ひましたから、一寸御紹介申します。この裁方は一寸見ると複雑なようですが仕上げて見ると極く簡單なものでございますから、皆さ、御使用の上わるい所を、お知らせ下さい。裁方、左の圖に示しました寸法は皆縫上りの寸法ばかりで縫代がありませんのですから、其お積りで最初にこの寸法通りに形紙を切りまして、それから用布の上に置き、縫代だけ廣く標をつけて裁つのでございます。(但し身頃の前、即ち前股上

の所は點線を裁切らないように、眞直にして置きまして上前は裏へ折返して見返となし、下前は持出しとして鈕釦の打合代をこしらへるのであります。)

縫方、先づ袖をはぎ合せて袖下を縫ひ、袖口に斜の見返しをつけて、まつりつけ、次に後身と背縫をいたします。次に身頃の股上を前後ともズボン下のように縫合せ股下を縫ひます。次に前の股上の點線の所に折をつけ上前は見返として裏にまつりつけ、下前は持出だけ廣くしまして、別布を見返しにつけます。これは鈕釦の打合せをしらへる爲です。次に後の股上の一寸斜に切つてある所へ、後身を縫付け、其折目は上の方へ返してまつりつけ、次に左右の脇縫をなし縫目は前の方へ返し前後の肩を縫合せて衿と袖とをつけます。





す。(但し袖付の所で袖が廣い時は肩山でギヤダシて行付をいたします)。

會員中村とめ子氏前號に載せたる子供の新体詩に曲と動作を付けて幼兒に歌はしめたるに其結果頗るよかりし由にて御報ありたれば左に記して御好意な謝と併せて此の如き研究の益多からんことを望む。(記者)

四分の二拍子 と調

1 2. 1 | 5. 5 3. 3 | 2. 2 3. 3 | 1 - |  
イ マ ハ イ ク サ ガ オ シ マ イ ダ  
こ き な だ し て - い は ひ ま す

5. 5 5. 5 | 3 1 | 2. 2 3. 2 | 1 - |  
へ イ タ イ サ ン ガ オ カ ヘ リ デ  
が い せ ん も ん や か ざ り も の

2. 2 1. 2 | 3. 5 5. 5 | 2. 2 3. 2 | 1 - |  
ソ タ ク シ タ チ マ デ ウ レ シ イ ハ  
そ - れ な お ほ ぜ い み に ゆ く よ

婦人と親族法(續き)

太田英隆

第四節 婚姻の效力

婚姻は未だ婚姻せない男子をして夫であると云ふ身分を得せしめて、尙ほ女子をして妻であると云ふ身分を得せしむるのであります。而してこの身分を得につれて相方の間に種々な權利だとか、又は義務だとか云ふことを生じまして、その身の上及び能力上に及ぼす効果は少なくありません。今この事に就いて少しく左に説明いたします。

第一款 身上に及ぼす効力

第一、夫婦は婚姻によつて相互に誠實でなければならぬ義務を負はねばなりません。

この義務は云ふまでもなく夫婦共通のものであります。若しこの義務に反するときは一家

はどうしても和合することは出来ません。この義務に悖るもの、内一番甚しいものは、彼の姦通であります。

第二、夫婦は婚姻によつて相互に扶養するの義務を負はねばなりません。

この義務は夫婦相扶掖するの義務あるより生ずる結果であつて、扶養義務の程度及び其方法は後に詳しく述べることにしますが、唯一言しておきますのは、扶養権利者が同居するのがいやだと拒ばんた時でも尙ほこの義務があるか否かと云ふことであります。こう云ふことも時々實際起ることで、又人によつて意見の違ふ所でありますが、夫婦扶養の義務は、夫婦たる身分に附随して離ることの出来ない關係あるものでありますから、離婚を求めて夫婦關係が解消し

た上でなければ、假令扶養権利者である一方が同居を肯んぜないときでも、この義務違背を理由として扶養の義務を免かれるものでないと考へます。

第三、同居するの義務

夫婦は共同生活を爲すべきものであつて、事實上生活の場所を同ふすると共に、亦法律上の家をつなぐせねばなりません。元來夫婦が同居をすると云ふことは、其相互の權利であつて又義務であるのであります。そうして妻は夫に隨従すべきものであつて、夫が選定した居所は外國であらふがどこであらふが、之れに隨従することを拒むを得ないのであります。又夫は妻を引取るの義務がありますから、妻は同居するのを拒むことは出来ません。

そこでこゝに當然の問題として、夫婦が右の義務に背反したときは如何なる制裁があるかと云ふことが起りませう。こんなことを云ひますと如何にも論理めきて來ますが、世上に間々あることでありますから、一通お聞きになつても不爲めではあるまいと存じます。(私は成るべく法律の理論は云はないで、實際に近いことを述べる考へでありますが、謂ひがゝり上止むを得ないときがありまますから、左様御承知おきを願ひます。)妻が夫と同居を爲すことを聞かないときは、夫は妻に向つて扶養の義務を負はないことになりまますが、若夫が妻をして同居を爲すことを拒んだときはどうでせう、このときにもし配偶者から惡意で棄てられたときは、之れを理由として離婚を請求し得べきものと思ひます。

この制裁は義務の直接履行を求めようとする配偶者の爲めには少しも効力を有せないのであります。若し妻が夫と同居するを頑然イヤだと云つて拒んだときは、強力を用ゐて強制するところが出来るかと云ふ問題もありません。この問題は佛國民法に於きましてもあることですが、積極論が一般に認められてゐると思ひます。

第四、夫は未成年の妻に對つて後見人の職務を行はねばなりません。

夫は妻を保護すべき義務がありますから、妻が未成年であつて之れに對し親權を行ふ者がなるときは、夫は之れが爲めに後見人の職務を行つて、之れを保護すべき任務に當るは固よりのことであります。併し、夫が未成年者であるならば勿論妻に向つて後見の職務を行ふことは出

來ません、こんなときは、未成年の妻の爲めに別に後見人を置いて、又未成年なる夫は自己後見人の補助を得て、其妻に對する夫權を行ふのであります。

第五、夫婦間の契約は婚姻中何時でも取消すことが出来ます。

婚姻中にした契約は、何時にても夫婦の一方から之れを取消すことは自由であります。然れども、契約の取消によつて第三者の權利を害することは許しません。それであるから、例へば夫婦の一方が他の一方より買受けた財産を既に他人に渡したときは、賣買契約を取消してもその財産は之を取戻すことは出来ません(未完)

## 忙中閑語

熊 泉

三十六

▲二歳になるやならずの稚兒の、永らく腸胃の病に苦しめるが、急に重くなり行きて病院に入りたりといふに、同じ年頃の同じ病に悩める子持てる吾は、其症候原因など聞きたくて耐らぬ心地せらるゝまゝに尋ね見れば、何事ぞ、母なる人のかゝる子供を兎ある公園に伴ひ行きて、お汁粉を言ふが儘に與へたりけるとは、けうときが上にもけうとう思はれて。夫も高等女學校まで御卒業遊ばせし母君とだにあるを、さては今時の女學校の育兒法の智識とはかゝるものにやありけん。

▲何時何地にやありけん、女學校の先生方の中に無頓着なる習字の先生の、よき程に年老りたるがおはしけり、ある日女先生方の前に來りたる二三

の生徒に向つて、物々しく申し聞かするを聞けば  
「卿等も餘り深くは學問せぬものぞ、多く學べば  
何れも此處に居並ぶ先生等の様になり果つるもの  
ぞ」

▲女の先生にて、子供持てるは兎角缺勤多くて困  
る」と某校長の澁面作りて言ひ出でたるに對し  
「さりながら、教育、殊に女子の教育には、家持  
ち子供持ちの経験ある先生こそ第一に適任におはさ  
ずや」といへば、「さなりく、されば子供持ちたる  
経験ある寡婦こそ、最も教師に適當したるものな  
らん」と答へられしこそ、可笑しかりしか

▲世に子らの眞中に立てる母よりも尊く見ゆるもの  
なし（前號口繪參照）と詩人ゲーテは歌ひぬ。  
嫉妬、怨恨、虚榮、慾望等の不徳を脱却せる婦人  
の眞美は尊いかな

▲結婚の時期を劃して三期とす、曰く情の時期、  
智の時期、意志の時期これなり。青春の血胸にもえ  
て、戀の外何物もなき時の夫は第一期に屬す、この  
期を過ぎて理性よく情を壓し冷靜に利害を判斷し  
て婚をなす、これ第二期の夫なり、意志の時期に  
至りては、即ち夫妻協力専ら事をなし、兒女の教  
育に力を致さんとす。一人にて此三時期を経由す  
るものあり、或は第一期をかくあり、若しくは第  
三期に入りて始めて婚するものあり。但し第一期  
に於てするものは樂最も多くして過も亦少からざ  
るなり。

世の中もかくこそありけれ夢の間に

きのふの花は今朝の白雪

（久米幹文）

# 上等の生活と下等の生活

在米國 朝 露 生

衣食住の三者、美しさが上にも美しく、味よきが上にも味よく、とのへるが上にもとのへるはんとをのぞむは、人間普通の欲望でございすが、生活の上等下等は、かゝる上皮や容物にてさだめられませぬ。この國の生活は上等にて、日本の生活は下等よとは、碧眼の婦人だちのよく云ふところ、なるほどピアもたねば嫁入り出来ぬ國、ダイヤモンドかざらねば貴婦人ならぬ國、公園を乗り廻る自動車その價五千四百圓、棚の上の皿一枚巴里製にて百五十弗、島國の女子だちにさかせなば、驚くことでございませう。

されど靜かに考へて御覽なさい。物質的の富は、比較上の富でございす。山里の賤の女が冬着の

洗ひ張りに苦心するも、都の令嬢だちの夜會の帯に想をこらし玉ふも、その身その身の花の色、紫とて上品なるにわらず黄なりとて下品なるにわらず、もつてきた果報相應に咲いて居るばかりではありませんか。羨むものは是ならば、この國人も巴里の榮華を羨まなくてはなりませぬ。誇るものは是ならばわが日の本とても、雞林八道に誇りちらしてもよいのであります。

人類の貴さはその心の奥の深山路にあるのであります、そこに清き感情の水流れてやまず、そこに匂ひある思想の花とこしへに開き、かくて慈愛の宮殿あり同情の樓閣あり、宇宙を莊嚴するのではありますまいか。

歴史といふもの馬蹄の塵にさわぎたる浮世の余韻をととむるばかりではありますまい誠に火に沸

きたてる血、情の出潮のといめがたき涙、これこそ歴史の錦を織りいだす經糸かと思ひます。

この國の建築よしやバベルの塔ほど高くつみわけたりとて、自由のために斃れたる一兵卒はども後世の寶とはなりませぬ況んやその折々にうつりゆく身をついむ皮、可笑しやいづこに誇るところありませうか。上等の生活を物質的に考へて居るものは精神的の貧民、憐れむべき下等生活の人でございます。四十年前までは、鍵を下せるルームの中、寢巻すがたであつたわが國ですもの、急に舞蹈會の仕度せふと云ふてもそれは云ふものゝ無理でござひます。悲しやこの國人は日本の本の物質的に貧しきことのみに知りて、精神的に富めることを知りませぬ。歴史をひもとかんでも、人道と云へる點から考へたなら、いづこの國いかなるところ

にも眞の靈的生活は存在し得るといふことがわかるではありませんか

吾等は自動車に乗り得ざるを悲しみませぬ。ダイヤモンドに身を飾り得ざることを悲しみませぬ。最爾たる吾等も宇宙を飾るべき花なることを自覺して身にふさはしき色香めでたからんことを希ふのみでございます。これは吾等の理想の生活、即ち上等の生活でございます

この國にて時遅れとなりし流行は遙々太平洋をこえて日の本にうつさるゝやうに、この國人のあるものが抱ける誤解せる生活の標準も我國に傳來せらるゝやうなことはありませんでせうか。あらばそれこそ由々しき大事でござひます。

『いつまでにかゝる頑是なさものばかりを相手にして、手薄き月給にはたらくものぞ、いますこし



高等なる職を得たや。せめては借家住居を廢してせまくともわが家と云ふものかまへたや『保育は神聖なりと人は云へど、お嫁入りの仕度するほどの収入もなくて、いつまで鳥はかあ〜とうたつて居ることか、ア、いやなことだ。いッそ何か職をかへやうかしらん』かゝる歎聲もしも日の本の學校教師や幼稚園保姆の口よりもれ出るやうでしたら、それこそアメリカ風邪にとりつかれたのであります。熱のひどくならぬうちに治療をしなくてはなりません。

わが知れる小學教師、片山里に職を奉じて廿年、月給はいつも十五圓、それとて酒を好み玉ふ父君と病める母君とを養ひ居るがごさいます。妻は洗ひ張りや賃しごと、先生は日曜大祭日には八字髻の大公望、二三の會參やら顔回やらは青鼻汁を垂

らしてこれにはんべつて居るといふ境涯、一張羅の袴は垢つきて光うるはしく、煤煙に染みし麥藁帽子阿彌陀にかぶりて詩吟かすかに「浮き」を見つめて居る顔、そもこれ上等の生活か下等の生活か。この村の家長は多くはこの人の教へ子にて今の生徒は二代目の弟子、百五十家の精神的村長となりて葬儀の仕度の指圖もすれば婚禮のむしろに上席をかまへることもある。夫婦喧嘩も先生によりて治まり、親類不和合も先生によりてなだめらる。この人の心百分千分してその親にその子に薰習するを廿年、美しく出來たる無形の樓臺ではありませんか。もとよりこの山里よりは學士もいせず博士もいせず、英雄も豪傑もつくらねど、友愛の種この人によりて植えられ、敦厚の美風この人によりて形つぐられ、幽蘭幽谷にありて人知れず香を

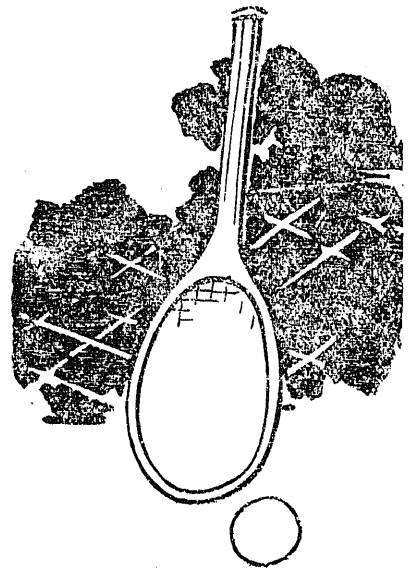
吐くといふ有様ゆかしいではありませんか。

アメリカの教師は一週六十弗日本なら一ヶ月四百八十圓の割になります。日の本の蝦茶様だちの、家に一つはとねごとまでし玉ふピアノは云ふまでもなく、その時々々の流行に遅れざる室内のかざりつけ、銀色金色燦然として油繪の美人艷色あでやかに石膏の彫像よばい答ふるやうです。されど吾は、泥炭の香鼻をつく津輕新田の一村、教育時論をよみて疎髻を捻じつゝあるわが友の生活美ましくてたまらぬのであります。世にすねたるの言といふか。色をも香をも知る人ぞ知れ。

さういふ涙よする紋をば青柳の

影の糸して織るかとぞ見る

(貴 之)



# 雪中の母とみどり兒 (譯篇)

口之津幼稚園 南 朝 参

雪中の母とみどり兒  
つくばねおろしはだ寒く

暗に荒野の路たえぬ

母は彷徨ふみどり兒を

片手に引きつ片手には

睡れる稚兒を抱きしめ

道なき道をたどりゆく。

吹く風いよゝ寒くして

夜はいよゝ更け行きぬ

深雪<sup>みゆき</sup>の光は行手を照らせど

手足は凍ほり息もやたえん

「噫、神よ天と仰きて祈りけり

我身ひゆとも「噫神！」

いとしき稚兒を救ひませ。

母は綿襖<sup>ぬのこ</sup>を解き去れば

寒風しみて膚を裂き

稚兒温安<sup>いもうと</sup>かれとかきいだく

双手は雪になえはてぬ

頬の接吻<sup>くちづけ</sup>涙散り

何時か雪路に屈折<sup>くつせつ</sup>る、

夙<sup>あした</sup>旅人過ぎ行けば

雪に埋みし人や誰、

目は安らげく閉されて

冷たき頬は色あせぬ

胸の破衣を掻き去れば

嬉れしき稚兒の微笑<sup>えんみ</sup>は洩れぬ。

あゝたゞ天に

豊

洲

夜半のあらしに怒あり

あしたの霜につるぎあり

人のこゝろにねたみあり

あゝたゞ天に光あり。

おつるこのはに憂あり

匂ふすみれに限りあり

人のいのちに定めあり

あゝたゞ天にさかえあり。

登る朝日に曇りあり

かゝやく星にきはみあり

人のたもとなみだあり

あゝたゞ天にまことあり。

流るゝ水によどみあり

もゆる鉄にあくまあり

人のおもひにけがれあり、

あゝたゞ天にのぞみあり。

# 短歌募集

△課題 隨意

△べ切 毎月末日

△發表 本誌上

△賞品 三光に粗景を呈す

△選評 眞宮起雲

△投稿 用紙は隨意にて左記の所に送らる可し

但添削及返稿を要せらるゝ方は往復葉書又

は切手封入にて申越されたし

伊勢國白子局區内みどり短歌會

## 春風春水

眞宮起雲選

平岩繁治

○ 神代より降りにし不二の雪ながら明けてぞまさる國のみひかり

中島文子

○ 年祝ぎにとりなり少女まづ入りぬ錦繪あせし羽子をやりしか

吉野絹子

○ 新どしの歌おもひ居るわが髪をなぶるかのことはるかぜのふく

○ 新らしく夢の緒かへて奏で見る樓のおぼしまはつ日はえあり

飯塚曉霞

今朝汲みし若水清くあたらしくやどるわが影いとふりにける  
笑み若うとしは九つあけのはるあまりやさしきほぎの歌かな

○ 長谷部和子

うち笑みて我とる鰯よ君が筆よいづれまことの笑まひなるらむ

○ 田中三舟

希望ある年のひかりのきらめきや河づらかけてはつ日かゝやく

○ 久保艶子

少女子が紙鶴おりて白梅につるすたもとをはるかぜふく

○ 林静子

江の南あさもや白うひと村ははなのあめつち匂ひにしもる

○ 伊藤天郎

我は笛きみは琴とるはるの夜を梅が香ふくむつきおぼろなり

○ 高木紅玉

せいらぎて流れつきせぬ五十鈴川君がみいつなことを祝ぐに似て

○ 田邊孝

窓によりて君待ちおればはら／＼と薔薇の花ちる薄月夜かな

○ 鈴村仙子

えせ戀の狂ひのいぶきつくな君しるき花ちり香はこぼたれん

○ 破琴に師のみうた乞ふはるの宵つきもおぼろや紅梅のまど

えせ歌とさけしみますな昨夜みたる夢のまゝをば泣きて綴りし

○ 吉田春蘭

花あまた匂ひこめたる世の春を旅にさまよふわれやせにけり

○ 吉田春蘭

あやうくも探りよりたる暗の月に夜風つめたき世なり春なり

○ 起 雲

かぼろ夜をひとり逍遙ふうた人が

微吟にゆるゝ梅のにはひや

いかめしき黄金の鞍のさくらめきや

のぼる旭に軍馬はえたり

立かへり又きさらぎの空さえて

天きる雪に霞む山の端

(爲 兼 卿)

いさら水かつく花のちりうきて

梅が香寒し小田の中道

(井 上 文 雄)

フレーベル會俳句端書集

四十四

一、課題 當季雜吟一人十句以下

一、締切 毎月二十五日限り

一、披露 翌々月本紙上

一、賞品 三光には繪葉書を呈す

一、撰者 當分本會の撰とす

一、投稿 本誌讀者は何人にてても投吟する事を得

用紙は繪葉書に限り(眞筆刷物隨意)住所氏名雅號を明記し必らず左の名宛にて送らるべし

埼玉縣入間郡芳野村

フレーベル會俳句掛

鹽野奇零宛

第十九回俳句端書集

甲州 泉 岳

橋の灯も師走めきたる往來かな

同

霜晴や鶏の蹴ちらす夢畑

大坂 きよ 子

蓮堀た跡や時雨るゝ鷺一羽

信州 耕 村

鳥の啼く崖や氷の解ける音

尾張 素 岳

福壽草風にもあてぬ置き所

同

火の消えて夢のさめたる巨燧かな

安房 稻 年

~~~~~

四十五

貞一の日記(承前) (明治卅六年五月)

その母

八月十二日 渡邊の伯母さんの家まで、歩いて行き、歩いてかへる、途中千里軒といふ牛乳店の前まで行きし時、「モーチ、カヒ〜」といつてずん〜入り込む、店に主人在り、よくおぼえて居ましたねといつて、五合入の瓶をくれる、喜んで持ちかへる、

八月十三日 白き海軍形の帽子の、古くなりて破れしを何時の間にか持ち出して、金だらひの水にて洗ひ居りしが、中よりボール紙クシャ〜になりて 出でしを見、ウンコ〜といつて、氣味悪るそうに、手を引き込める

ヨル、マツク、ソラ、ホシ、デル、と續けていふ 貞一にしては、余程長き話なり、

四十六

此頃時々「かわさんかうちゐる」といつて嬉しそうな顔をす、夏休みにて、母が終日家に居る故なり、

八月十五日 今日父秋田地方へ出立す、午後より母と散歩す、到る所の門の前に立ちてゴメン〜アケ〜といふ、

八月十六日 朝おきて トーサン、キナイと不思議な顔をなす、あしたも〜、おとーさんゐないよと、いへばわかりしか、ワツと泣き出す、散歩に出でし時、砂利をしきたる所に立ち、足踏みならして、サレインシのと唱ふ、砂利を見ればいつもかくいふ、

母と安田さんと三人にて、王子の印東様に行く文子さん、忠男さん、大に歓迎して、花園をあちこちと案内して、花をとりてくれる、貞一

は一向浮き立たず オウチカヘロー〜とばかりいふ、歸途染井の墓地を通るに淋しき故かオウチカヘロー〜といつて、泣き聲を出す、

八月十七日 朝床の中にて、父さんのおみやに、何をいたゞくのとときけば、花といふ、晝頃は、菓子といふ、何か物音をきき、又人の立ち上るを見て「父サンオカヘリ」と 玄關へとび出し

トーサン〜とよぶ

母と安田さんと三人にて、太陽堂へ晝端書を買ひに行く、電車と流車のを見つけて、大騒ぎ故買ひてもたせしに、獨り椅子にもたれて、チン〜ゴ〜、ゴケンチヨ〜などいひて遊

び居れり、

八月十九日 昨夜静子泊りし爲 今朝眼さめて床の中にフン〜云ひ出さんとせしも、静子

傍より ニユツと顔を出せば、機嫌なをり大喜びなり、

八月廿三日 小原先生の所へ行き、体量を見て頂く 一〇七〇、〇瓦あり、轉地の事、大洗、平磯邊は如何と伺ふ、彼の海岸は大人の避暑にはよろしけれど、小兒には余り寒き風吹く故 よろしかるまじとの事なり

下痢二回 牛乳 一日二〇〇瓦に減ぜらる、

八月廿五日 朝食前に、少しく水を吐き、終日元氣なし便通なし

八月廿六日 藥を飲ませんとすればイラナイ〜と泣く此の語は初めてなり、

格子のあく音すれば、トーサン、といつて玄關にとび出す、

牛乳四〇〇瓦に増す、



便通二回 形あり、

八月廿七日 父歸宅

八月廿八日 父母と電車にのりて大森に行く、大喜びにて始終目を丸くキヨロ／＼して 外を見  
て喜ぶ、

大森海岸魚榮に一泊、電車にのつておうちかへ  
ろうといつて泣く、

坐敷の壁の中に砂のキラ／＼光るを見て、ホシ  
／＼(星)といふ、

八月廿九日 電車にのりて、羽田浦の要館に  
く 二三日滞在のつもりなり、

海岸に行き、船を見て軍艦／＼といひ、水澤山  
手々あらふといふ、

砂原をハダシにてかけまわりて喜ぶ

八月卅一日 歸宅

四十八

九月二日 今朝より熱あり、咳少し出づ、元氣悪  
しく、喰べたがつては泣く、

吸入器を出して、試みたれども、余り小さくて  
工合あしき故、父買ひに行く、吸入させれば、

いやがつていろ／＼文句をいふ、キライ、モー  
ジキ、デナイ／＼等 いろ／＼の語をならべる

便通なし 体温 卅八度四分(午後七時)  
九月三日 咳少しよくなれり、元氣も左程あしか  
らず 小原先生の診察をうく、

便通形あり、一回

九月九日 安田さんに、ピアノを弾いてもらひ、  
君が代をうまく、詞も節も 唱ふ、ばあや 聴

いて居て、上手とほめしに、其後も ばあやが  
聴いて居なければ 唱はずといふ、

九月十七日 父母と動物園に行き、象を見て、象

頂戴といつて手を重ね、水鳥を見て、コワイ／＼と泣き聲になる、他の動物も皆こわがる。馬はいつも見馴れしもの故、平氣なりき。

九月廿三日 馬術練習所へ行き、馬を見て、オウマスキチヨーダイ、ハヤイ、デンシヤミタイ、ボーシハイ といつて、自分の帽子を、馬にやらんとす。

十月三日 ビーマーチの事を、ヒバチ／＼といふねむくなりし時、ピアノ、ヒバチ、コン／＼といつて、安田さんに弾ひてもらひながらねむる。十月八日 父と電車にて、御茶水橋の小林に行き、寫眞をうつす、電車を見れば、狂人の様になつて、電車早くイラッシャイ、父サンカケテ、電車イッテシマフと大騒なり、

十月十八日 毎日／＼電車／＼と、電車なくては

夜が明けぬなり、電車の繪を書いてくれると、誰でも氣に入るなり、書きかけると、何時までも、書いて／＼といつてせめる、玩具には電車三つあり、それをならべては、チン／＼ゴ／＼といつて動かす、又は「電車ツナグ」といつてつなぐ、繪端書屋に行けば、電車はがきといつて必ず買はせる、此頃は六七枚も持つて、時々獨りて持ち出しては楽しんで居る。

時には仰向けにねて、足にてつつぱりながら、チン／＼ゴ／＼といつて、身軀を押して行く父の在る時は、父にもせよとて、父を大きい電車、自分をチツチャイ電車といひながら、二人併んで、座敷中を轉がり、終には、父の腹の上に乗つて動かす、外を歩く時も、全し様に、電車になり、チン／＼ゴ／＼といつては、走つ

て行き、時々止つては、上野など獨りでいひ、  
又は電車こわれたといつて動かず 側へ行つて  
身體にさわつて「直つた」といへば 又チン／＼  
ゴ／＼とかけだす

十月廿六日 小原先生の許に行き、体量を見て頂  
く 一一、四五、〇瓦あり、

夏頃は、自分と同じカーキ色の、帽子を冠れ  
る兒童を見ると、イキナリ自分のをとつて、さ  
し出しながら、オンナシ ボーシ／＼といつて  
大よろこびなりしが 此頃は 全し様な靴を、  
着けたる兒童を見れば、側に行きて、全し靴／＼  
といつてくらべる。

十月卅日 十一時打つと、ばあやが、晝の御膳だ  
てをする、其音をきいて、誰もいはぬに、ビヤ  
ノの室に、一バイ、ひろげてある繪や玩具を

大急ぎにて 片付ける事毎日なり、安田さんが  
いひつけて、片付させしは、只三日間なりき。

十一月三日 此頃漸く滑稽の動作をなす、星を見  
て、星を取ろうと云ふ故、お取りといへば、手を  
伸べて取る眞似をなし、御父さんに上げようと  
父に渡す眞似をなす、何か貞一の知らぬ物をさ  
して、これ何ときけば 考へて「マンマ」とい  
ふ、「マンマ」なら、御上りといへば微笑しなが  
ら、喰べる眞似をなす、

十一月十四日 今日は 陛下伊勢路に行幸の日な  
り、午後 茶の間に、茶棚の上にある菓子皿  
を見つけ、父にむかひ、しきりに、オモチャ、  
チヨードイといふ、黙つて見て居れば、遂に足  
をつまだて、取り下ろし何も入つて居らぬを  
見て、さも失望したらしく、カラッポといつて

又元へ返へし置けり、これは 此間他所の人に  
おもちやになさいと ビスケット頂きしより、  
ビスケットを オモチャ〜といふ様になりし  
なり。

十一月卅日 ツナグといふ語、大變氣に入りて、  
小原先生と佐々木先生とつなく、腰巻とはらま  
きとつなく等おもしろき節をつけていふ、

十二月四日 自分を指して、コレオイシヤサマ  
といつて、母の胸をたたく、側より父が、これ  
は佐々木先生かといつて、貞一の頭をさはると  
貞一とぼけた顔してコレオツムといふ、それじ  
やこれかと 肩をさはればコレオべ〜とすます  
十二月十日 午後母と村井に行く途中、凱旋兵を  
歓迎の旗たてたるを見て、コワイ〜と大急ぎ  
にて そこを走る

十二月十三日 ウエファースと貞チャンの口とつ  
なぐといふ故、ウエファースと、父さんの口と  
つなぐといふと、イヤ〜と口を抑へに来る  
十二月十七日 馬上さんより さつま芋を澤山に  
頂く さわらうとして側へよる故、これはまだ  
土がついて ばつちよと いへば のぞいて見  
て こわい〜と逃げて行く、

床に入りて、蚊帳の事を思ひ出し、カヤ、ネコ  
ガ、アツチへ持つテイツタといふ。  
十二月廿三日 能生司さん遊びに来られしに、電  
車かいてとせめ、終には、トーサン、カーサン  
サ、キセンセイ等 書いて頂く、かへらるゝ時  
外套を見て オハヨリといふ  
十二月廿四日 今日、父の外套をきて、ネクタ  
イを 前掛の上につけ、中折の帽子をかむり、

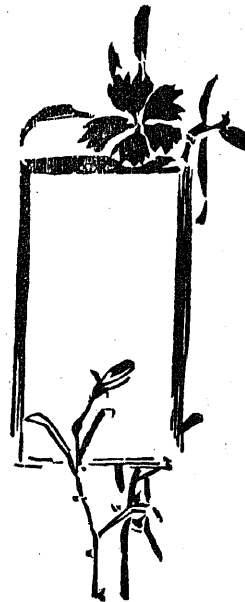
コレチツチャイトーサン、イツテマキリマス、  
ウエフアースと モ、ヤマと カステラを買ッ  
テクル」といつて 父の外出の時の真似をなす

幼児の言語に就きて或人の取調へたる處によれば五千四百  
語中各種の語の割合左の如しとぞ

|       |        |
|-------|--------|
| 名 詞   | 百分ノ六十  |
| 動 詞   | 百分ノ二十  |
| 形容 詞  | 百分ノ九   |
| 副 容 詞 | 百分ノ五   |
| 代 名 詞 | 百分ノ二   |
| 前置 詞  | 百分ノ二   |
| 間 投 詞 | 百分ノ一、七 |
| 接 續 詞 | 百分ノ〇、三 |

## 幼稚園と家庭

五十二



### 談話と手技との結合

和田 實

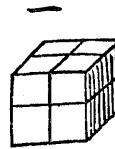
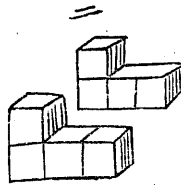
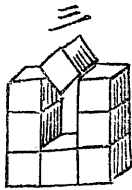
幼稚園教育の手段として遊戯、談話、唱歌、手技の  
四種の方面が共に偉大なるものであることは申迄  
もありませんが、今注意して此等の四つが如何に  
連絡して居るかと考へて見ますのに談話の材料と  
しては遊戯の事實が澤山に取られてありますし唱  
歌の材料としては遊戯、談話に關する事柄が澤山  
に採用され又遊戯には唱歌が頗るよく應用されて

居ります、然るに不思議な事に手技ばかりは其材料として普通の物品が誠によく採用されて居る丈で、唱歌や談話などに對しては其連絡が充分でない様に思はれます、是は果して正當なことでせうか、其はもつと研究する必要はないでせうか近頃來ました米國の雜誌「幼稚園界」に左の一篇が出て居りました、何となく私の此疑問を解決する端緒ともなりそを見えましてので多少翻案して譯載致します、御批評下さいまし。

◎大晦日 (談話と第一積木との結合)

米國 ラシエル、ゴッズ、スミス原作

○あしたは正月ですね、皆さん今日か歸りなされると晩に戸を締めて、窓をし



めて寢るでせう? そらは家が家ですよ(1)早くあしたになるとよいございますね  
○此家はメリー、とトムの家です、二人は仲のよい、はきくした、すなはなよい子であります、今夜は大晦日だからいい子には福の神があしたい、お年玉をくれますよ茲に寢床が二つあります、是方がトム、是方メリーですよ(2)  
○それから二人のお父さんも、お母さんもあしたの仕度が出来たので、寢様と思つて床に入りました、

○すると、窓の方にけた、ましい音がしました、お父さんは何だらうと思つて飛び起きて窓の所へ行きました、是が窓でせう?(3)

○お父さんは窓の戸をはねあけて、外を

見ましたら、一つの馬車に大勢、人が

乗つて驅けて行きました、さー何が乗

つて居たでせう？

是が馬車に是が馬ですよ、二匹居るで

せう(4)

此馬車に七福人が乗つて居ましたよ、

そして大きい聲で「オイ、今度は太郎

ダヨ」、「ソレカラ向フノ家ノ三郎サ」

「其次ハ此處ノトムとメリーだ」ナン

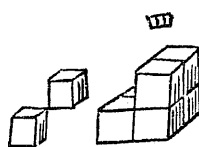
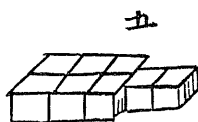
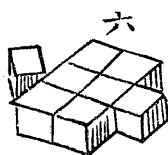
テ云ツて馬車は驅けて行きました、

お父さんは「何の事だ」と云ひながら

寢てしまいました

あしたの朝早く起きましたらトムの枕

の元に大きな風、メリーの枕元にはさ



れいな羽子板が「お年玉となつてあり

ましたので二人は大層喜びました(5)

是が羽子板で是が奴隷ですよ(6)

### 適材教育と幼稚園

左の一篇は伊澤修二氏の談話せられたるを日本の  
小學教師記者が筆記して該誌に載せられたるを参  
考の爲め轉載せり (記者)

人の天賦の性質及境遇上、將來如何なる  
業務に就くのが、よりよく成功し、よりよ  
く幸福であるかといふことを豫見して教  
育すること出来たならば、これほど有  
功な教育はなからうと信ずる、處が實際  
には天稟の性能及境遇に悖戻して教育  
することが澤山にある。例へば生來醫者

として適當なものが、法律學の修業をなし、商人としての才幹あるものが、官吏たるの教育を受け、若くは工業に適すべきものが、哲學の研究に従事するといふ例は、世間乏しくないことであらう。是等の人々にあつては、何れも不成功に終りて、不幸に世を送ることになるのである。夫故に如何なる人には如何なる職業が適應するかといふことを、豫め判定して、教育を施したならば、是れに勝る有功の事業はあるまいかと思ふのであるが、是れは神か聖人なれば格別、普通の人間には容易に知り得ないことである。さりとて、一向之を顧みぬといふのは、まことに不親切極まる次第である。自分はこの問題を解決せんとして今日まで研究した結果では之を系統的に説明することが出来ないでも、心中漠然として浮んで居ることがある。此の

適材教育のことは既に後進の若手教育者にも語つたことがあるが、其の人々等も自分等と同じ希望を抱き、種々研究の結果を實地に試験して見やうといふ程度に達して居るのである、开は何であるかといふに、之は幼稚園教育に基礎を置いたのである。抑も幼稚園は人生第一着の關門であつて、所謂父母の膝下を離れて社會に出づる門出の場所であるから、こゝに於て小兒の特質を研究するものが、其の目的を達する唯一の手段であるかと思ふのです、自分は幼稚園のことにつき、しばしばその歴史、沿革等を考査し尙現狀を觀察して見たが、今日、我國にて行つて居る幼稚園の仕方は、要するにフレーベル式である。このフレーベル式は、歐羅巴の社會及家庭の事情に適應せるも日本には如何のものにや、尤も中には日本化せるものも



ないではないが、その多くはソツクリ西洋の型であると思ふ。現在、日本の幼稚園は西洋の社會家庭の事情には適するかも知れぬが、今の日本のそれには不適當である。どうしても今後は、日本の社會及家庭に適する所の幼稚園が生れなければならぬ。例へば今日の幼稚園では、大概、小兒を椅子に腰かけさせて居るが、家庭では全く之と反對に疊の上に座らせて居るのが通例である。座つて居る習慣のものを急に椅子によらしむるのは軟弱な小兒の爲に極めて有害である。成人でも、長く椅子によつて居ると、病を引き起すものである。彼の寄宿舎等にて脚氣患者を生ずるが如き多くは腰をかけて居るのによるといふことである。是故に小兒を椅子によらせるのは、大に考へものである。さりとて、幼稚園の椅子を全廢して座らせる

といふことも、今の社會の事情に適しないことである。何となれば、今の小學校は全然腰掛主義である。小學校の腰掛主義を改めるといふのは、到底出来ることではないから、多少、幼稚園に於て腰掛によることを慣れしむる必要があるのである。故に幼稚園では極端の腰掛主義も亦疊主義も共に當を得て居らない、此の兩端を折衷した兼用主義が、最も家庭學校の事情に適することと思ふ、これは、誰の目にも、よく知れ切つた事であつて其の一例に過ぎぬが、他にも之に類似のことで改良すべき點が多々あるのであらう。

ところで、自分が、近き將來に於て、幼稚園を設立して見たいと思ふのは、勿論、以上指摘したやうな短所を補正して行く積りではあるが、其の主目的とすることは、各人の性質境遇に應じて適當なる

教育を施し、適當なる業務につかしむるには幼稚園に於て各幼児の性質、習癖、体格等に關する記録を作り、殆んど統計的に整理し、將來の職業選擇の準備をさせたいといふのに外ならぬのである。

且尙ほ、引つゞき小學校は勿論、中學校等にもかゝる統計的調査をなし、個性に適應して職業鑑定の資に供したならば殆んど肯綮を得るに庶幾うと思ふのである。殊に去る十三日はベスタロチー先生誕生後百六十年に相當するを以て、朝野の教育家相集り、その紀念會を開かれ、何か紀念事業を經營することともあらば吾等は日本の幼稚園の設立を其の一に加へたいのである。之れ即ち、ベスタロチー先生の遺志に最も叶ひたるものであると思ふ。(日本之小學教師)

### 幼児品評のいろ／＼

人物を品評するとは、誠に、興味あるとなれど、往々不測の害を残すと多ければ、人皆之を戒むるを常とす、されど、歴史上に於ける、古人の性行を論じ、其事蹟を分析するは、利ありて害なき業と云ふとを得可し、幼稚園に於て、幼児の性行を品評するとは、歴史上の其れとは、比較す可くもあらねど、吾等子供と遊び、子供と暮す身には、幼児の性質を分析し、其行動を品評するとは、中々に興ある心地す、況して、其兒の父母をして聞かしめなば、又一層の感興あらんかと思はる、今女子高等師範附屬幼稚園に於て、某保姆が某幼兒につきて視察せる記事の二三を、左に記して所感を述べん

○某男兒 父は某書籍會社取締役(本園幼兒)

活力充實して、溢るゝが如く、盛に活動す、擬戦擬馬等を好み、はげしき勢を以てかけ廻る、又好みて相撲をとる、室内にありては、談話の時々は、稍長時間に亘りても、靜止して熱心に傾聴すれども、手技の時は唯短時間内のみ熱心につとむれども、其後は左右を回顧し、手足の靜止するを稀なり、行爲は無邪氣天真爛漫にして表裏なし時に随分亂暴なるをなせども、決して、惡意を含むとなし、從順にして能く命を守る然れども永く實行するを難し、此兒元來入園の初めに於ては頗る粗暴なるが上に、我儘不從順にして、保姆の言を重んぜず、何事も馬耳東風と聞き流す風ありき、要するに保姆に對して敬意なく、傍若無人の有様にて、自分が監督者の下に教育せられつゝあるとを、知らざるものゝ如くなりき、仍て入園後

第一着に、保姆の一度發したる命令は、動かす可らざるものなりと云ふを知らしめんとて、先づ一二の命令を固く實行せしめ、我儘を通さしめざるを努めたり、彼は之によりて大打撃を受けしものゝ如く、幾分か苦痛を感じたるが如かりし、されど元來正直にして無邪氣なる性なるを以て、一度保姆の命令に従ふ可きものなるを悟りたる後は、急に變化して、以來大に改まれり、而して九月の中旬より、數名の敎生、保育の任に當りしが、之に對しては、尙甚だ不從順なるを以て、敎生は大にもてあまし之が取扱ひに困じ居たり、されど、敎生も亦保姆が前期以來なし來りたると同の方法をとりたるを以て、漸次に命令に従ふ様になり、十一月中旬に至りては、總ての人に對して從順となり、尙良き方に向へり、されど前述

の如く實行をつゝくると難く、又禁止したるを再びなす事少なからず、之意志の弱きが故にして之が鍛錬に盡す能はざりしは遺憾なりき、従つて今も忍耐力に乏しく、何事にもあき易くして粗漏なり、又不規律不整頓にて、物品を濫費する傾向あり、これは特に家庭にありて注意あらまほしき處なり、活氣溢れて活潑なるにも係らず、案外小膽なれども又甚だ義侠心に富み、尙此頃は同組中なる弟を愛護す、組中第一の人望家にして、外遊の時等、他兒を指揮して遊ぶ、衆兒又喜びて之に従ふ、此の弟を愛するをや、人望を得るに至りし等の優しき心は、皆從順になりしより現はれし行爲にして、以前は全く亂暴にして、直ちに腕力を加へていぢむる故、皆畏れいたりしなり、諸心力の發達は、普通なれど、手指の不器用なる

と、性來の不規律と美的看念の缺乏とによりて、手技は拙なり」と。

右の如きは、純然たる多血質の兒童にして、子供としては、先づ正常なる即ち最も普通なるものなりと云ふ可し、斯の如き幼兒を有する父母は、其教育に關して充分の注意を拂ふの必要と價値とを有す、何となれば斯の如き幼兒こそ、教育の有無に因りて、其將來に大なる差異を生ずるものなればなり、

次に最も奇異に感ずるは、教育者の子弟に存外なる不良の兒童あるとなり、左に掲ぐるは其一なり  
某男兒 父は市内小學校長 (本園幼兒)

執拗にして不從順、破壊的にして陰險、意地悪きことは、此兒の特性なるが、前學年に於て、大に其傾きを滅し居たり、或は、大に矯正の功ありし

にやと、疑はれしに、夏休み後、再び急に、其缺點を表はし來れり、

又同組中には、幼児間にも、相當の制裁ありて、自然己れの我儘を振舞ふ能はざるより、退園後、附屬小學校の方に居る、姉の終業を待つ間、保姆の眼を離るゝを待ちて、他の組の幼児に向ひ、或は小學校の女兒に對して、窃に亂暴をなし、此等の兒をいぢめ泣かすこと屢なりき、こと能く訓戒せしより間もなく改りたり、されど此兒の缺點は未だ眞に矯正することを得ず、安心して獨り離し置く能はざるは遺憾なり、舉止活潑ならざるにはあらざれど規律的ならず、かけつて等は甚だ拙なり、眼光鋭く一種の光を放つ、他人の惡評をなすこと屢あり、其惡評も幼稚園にて交れる人々の惡評をなすにはあらで、家庭に於て交れる人々、

即ち、書生、自家に預れる人、及其等の人の家庭等につきて話す、其話す事項は幼兒不相當の事多し、例へば誰某の親は甚だ吝嗇なりなどの類なり察するに家庭に於て大人の話すことを聞きて云ふものなる可し」と。

「僧侶の何とかに醫者の不養生」の諺に漏れずとは是では如何にも情なき心地す、是にて思ひ合すことあり、嘗て或人の云へるを聞くに、世にわはれるは、牧師の家庭なり、彼等は外に於て、神に反對せる人々より、惡口雜言の限りを振りかけられ、能ふ限りの忍耐力を盡くして、家に歸り來るものなれば、家庭に於ける彼等は、外に於ける彼等とは、全然別人物となり、短氣慘酷思ふ様に荒れて、和樂温情など藥にしたくも得られず」と語れり、勿論、是は或少數の牧師に限れるには相違

なけれど、右の小學校長に比較して、思ひ當る節なきにあらず、述べて茲に來れば、讀者或は小學教員や牧師など待遇薄くして生計裕かならざるより従つて子弟教育に盡くすの暇なきによるものならんと思はるゝものあらん然れど其は決して然らず、左に載する一篇を讀まば以て生計の程度は教育を左右する絶体の境界線にあらざることを知らん

某男兒 父は小さな薪炭小賣商 (分室幼兒) 正直にして従順に、温厚にして篤實なり、資性無邪氣にして廉恥心に富み、獨立心、忍耐力強し、其温かなる他愛的感情と、困難を忍びて事を成し遂げんとする強き意志とは、自ら其行爲を仁たらしめ、勇ならしむるが故に、自然同輩の敬愛を招くを見る、其友に交るや、信ありて情厚つく、他

兒の困難を見ては、衷心より氣の毒に感じ、力の限り之を救ふを常とす、又他兒の惡行を見ては、自ら不快禁する能はず、熱心に之に忠告す、然も人に忠告する丈の徳と力とを有するが故に衆兒の中に大なる人望を有せり、彼は統御的才に富むにはあらねど、實行を以て人を服し、陰然保姆を助けて、良感化を衆兒に及ぼしたる功は、頗る多とするに足る、實に末頼母しき優良なる幼兒なり、諸心力能く發達し、記憶力強く理性明晰、思想亦能く整頓せり、言語は低聲なれど明瞭にして能く語る、されど手先は頗る不器用にして畫方極めて拙、蓋し思想餘りありて筆動かざるものか、他の手技に於ても、工夫想像力の強き割合に、手に由れる發表の術之に伴はず、將來或は靜に考ふることの得意なる人物となる可きか」と。

子を持ちても、斯程に能く發達せるものを、得ること稀なるべし、其にしても彼兒の家庭や、其が父母の性行こそ、知らまはしきものなれ。

ヘルマン、ビーベル氏の調査によれば三四〇人の先天的白痴兒中

神經病の遺傳より來れるもの

一六〇人

父に飲酒の癖あるため

八二人

血族結婚より來れるもの

四三人

懷妊中母の疾患其

五五人

なりと云ふ飲酒の害恐る可し

### ◎質疑應答

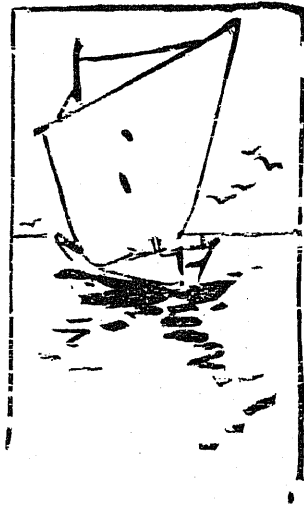
子供を御持なさる母方及幼稚園は保母として御働きの諸姉方には、下の様な簡単な質疑應答が御便利だらうと思ふて今度此欄を設けました、家事及教育に關する御質問は何でも宜しい質問は端書にて表記は左の通りに願ひます、

女子高等師範學校附屬幼稚園内

フレイベル會編輯員中

「問」近日來大分寒さが強い様ですが幼稚園にはス

トープが御座いますか、



「答」左様暖房の設けは御座います、之を充分に焚いて室の温度を幼児の体温に近けると室の外に於て温度の差異が烈しくなつて、一寸室を出るにも、それ外套、やれ襟巻と云ふ様になり、ますから、自然、子供は外氣に觸れる場合が少くなり、従つて、皮膚と氣候との調和が鈍くなつて、風を引き易い子となります、故に、暖房の設けがあつても、其は唯強さ寒氣を防いで、静座して仕事をしたり、話を聞いたりするに適當する位、即ち華氏の五十度位迄に室内を暖める丈にして、其他は衣服に因つて体温を保持する様にしなければいけません、そして其衣服も成る可く室の内外に因て、異にすると云ふ様なことの少ない方が、幼稚園や學校には適當です、若し、そうでないと、室の出入に、一々外套や

襟巻をいぢくらなければなりませんから、

「問」子供の冷水摩擦は、大方何才位から始めて宜う御座いますか

「答」皮膚を強くする爲に、冷水摩擦は至極結構ですが、普通の遣り方では、餘り早くからするのはよくありません、某博士は満四才頃から、閉ぢた室の中で、迅速に行ふが宜からうと、云はれました、

「問」三才位の子供間食の菓子は何が最も適當にや御教示に預り度候

「答」かるやき、ビスケット、がいゝと云ふ方もありますが、實際はあまりよくありません、風月堂にエーファースといふ西洋煎餅の様なものがあります、これは至極宜しい様です、併し成る可くなら漸次に、間食は廢さなければなりません、



「問」宅の子供は、昨年幼稚園に出しましたが、未だ、此頃になつても、幼稚園での御話を、宅に歸つてから聞いても録に話せませんが之は何方様のも同様でせうか

「答」左様です、片言まじりで、おもかげ丈でも、話せば結構です、六才頃にもなると、だん／＼上手に話す様になりますから、そんなに急ぎたてる必要はありません、併し時々お母さんが、聞いてお遣りになることは、至極よい事です、  
「問」私の幼稚園には毎日お辨當のばんを自分で買って来る子供が御座いまして常に二三錢宛の小錢を持て居りますが是は教育上何う云ふものですか、

「答」私共は至極不賛成です、勿論今の世の中は、昔とは違ひますから、早晚「金」と云ふことの智

識は、充分に知らせなければなりません、併し、夫れにはまた夫れ／＼時期と段階とがあるものです、幼稚園の様な幼児には、假令「貨幣」と云ふ物を知らせても其使用法を實驗させる必要はありませぬ、殊に常に之を懐にするなどは、先づ以ての外と思ひます、併し是は、其子供の家庭にも因ること、下等社界の家庭などでは、子供等に早く「金錢」と云ふものに就て知らせることが、父母の利益ですから、仕方がありませぬが、中以上の家庭では、之が使用を實驗させることは、成る可く晚くする方、得策と思ひます、尙詳しくは何時か別に書く事に致しませう、

「問」毎晩子供が寝ます時に、お話をと云はれますが、近頃は種子がつきて困ります然りとて一つ

話を二度繰り返すもつまらなくて仕方がありません、  
せぬ、何うしたらよいでせう、

「答」一つ話を二度繰り返すのが、つまらないとは、  
子供衆の御心ではなくて、多分、母御さん御自  
身のことでせう、是は少し子供に取つては不親  
切な親御さんですよ、子供は一つ御伽は二度聞  
かうが、三度聞かうが一向構ひません、否却つ  
て度數の重なる程、益々愉快になるのですか  
ら、或度迄は、子供が要求次第、幾度でも一つ  
話を話して御聞かせなさい、そして、其繰り返  
してお話なさる時は、なる可く、前に話したの  
と、寸分違はぬ様、出来るなら、言葉迄も同じ  
に話すのが、最も、子供の興味をひき起します、  
そして、種子がつきて御困りなら「家庭童話母  
のみやげ」と云ふ本を御覧なさい、適當なお話

があると思ひます、著者は女子高等師範の教授  
で、児童保育に経験ある東基吉氏、定價六十錢、  
同文館發行です、

「問」子供の寝ね候時お伽話を聞かせ候ことは教育  
上有効なりと申候得共右は話す人及其方法如何  
には構はぬものに候や伺上候

「答」大に構いますね、其話す人が子供の尊信する  
人でなく、其話の材料と其話し方とが教育的で  
なければ、逆も教育的功能はありませぬ、併し  
三四才の子供の尊信しない人と云ふものは、め  
つたにありませぬから誰でもよい様なものです  
が、其中でも最も信任する母親などから聞かせ  
るのが、一番有効であります、それから其材料  
と方法とが教育的と云ふのは、何れも一切勸善懲  
惡でなければならぬと、云ふのはありませぬ。

雜報

●ベスタロツチ先生の紀念會　去る一月十三日帝國教育會に於て、先生死後滿百六十年の紀念會を催したり普通學務局長澤柳政太郎氏開會の辭を述べ、東京高等師範學校附屬主事小泉又一氏は先生の傳及主義に關する講演をなし前文部大臣久保田讓氏、外數名士の祝辭あり、會するもの數百人中々に盛會なりき、當日式場に於て東京府女子師範學校生徒の合唱せる先生追慕の歌あれど、今は略す。

●女子大學の附屬幼稚園　小石川女子大學に於ては愈本年四月より附屬幼稚園を開設するに決し、森村豐明會より數万圓の寄附を爲したる篤志を紀念する爲めに、豐明幼稚園と稱すと云ふ。

●精華小學校幼稚園　寺田勇吉、湯本武比古兩氏の主幹せる同校にては、來る四月より幼稚園を附設する由にて、目下保母の人選並に幼兒の募集中なりと云ふ

●託兒場設立の計畫　東京市にては今般託兒場設置に關し不日評議員會を開き議決の上其筋に至急開設を促す筈なりと云ふ今其議案なるものを聞くに左の如し

- 一、市に於て其特種小學校に託兒場を附設するも（本文託兒場に凡そ八十名を入るゝものとし保護料を徴收せざるごと）
- 二、市より各區に勧誘し、適宜の位置に託兒場一ヶ所以上を設置せしめ、又は其市立小學校に附設せしむること（本文託兒場は同八十名を入るゝものとし保護料として實費を徴收するも差支なきものとす）
- 三、前項託兒場は學齡未滿の幼兒を入れ成るべく簡易なる方法により、保護遊戲せしめて、身軀の發達を遂げしむるを本體とし、三歳以上の者に對しては漸次に智徳開發の方法を用ふること

●東北凶歉救済の檄　知人より左の檄文を送り越

したり、東北の天地今や悲惨を極む天下仁慈の人奮て彼等の窮を救はれんとを、敢えて全文を載せて讀者諸姉の御同情を希望す、

### 東北凶歉救済の概

嗚呼悲惨なる東北の天地！、去る三十五年凶荒の創痕猶癒ざるに昨年の大凶歉に遭遇し、今や福島、宮城、岩手三縣の野に大饑鬼道を現出しつゝあるにあらずや；心あるの仁誰か此の悲惨を袖手するを得ん乎。

昨年凶作の原因は實に天候不良の致すところにして、遂に三縣下は收穫皆無と云ふ悲惨に陥りたるなり、而して或る町村の如きは日露の戦役に際し、恒に非常米として積立て、凶荒に備へたりしを利用し以て倉庫を空虛ならしめて國債に應じたりしに、圖らずも此の大凶作に遭遇し一層の悲痛を來せりと云ふ、今吾人が聊か救済せんとする教育の方面に於て之を述べんに、今や小學校を閉鎖せんとしつゝある町村を生ずるに至れり、たとひ此の甚だしきに至らざるも半日學校の不吉を見んとしつゝある町村あり、吾人は此等小學校を訪問し親しく聞く所によれば、各校に辨當を持參せざる二十乃至三十の兒童あり、教師は之を憂ひ自ら甚だしき粗飯を示して如何なる粗惡の食物にても恥つることなく持參すべく説諭するも只御腹がすきませんと云ふのみにて、依然として持參せず、仍て彼等兒童の家庭の状況を觀察するに全く辨當の材料に非ざる粗惡極まる食物を見る故に各

町村現下の急務として小學兒童辨當給與の方法を調査し、現に實施しつゝある町村あり、昨年末までは甚だしき慘狀は尠かりしが本年一月となり來て慘狀の度一層を加へたり、想ふに更に三四月頃に至らば益々其極に達せん、噫其最も困難なる時に於て小學校の新學年は開始せられ教科書購入の必要に迫るべし、然れども前述の如き塗炭に苦むの徒にして如何にして之を講求するを得んや、是れ吾人が大に痛心する所にして、同志と相謀り世の仁人に訴へ以て此等小學兒童に對して教科書を給與せんとなす、伏して請ふ血あり涙ある吾人同胞諸氏よ、一掬の血涙を以て現下の窮狀を救ひ給はんことを、

明治三十九年一月

福島縣佛教救済會

### 綱 領

- 一本會は本部を福島縣双葉郡幾世橋村大聖寺に置き事務所を東京市小石川區大塚坂下町十七番地に置き一切の事務を取扱ふ
- 一義捐金は多小に拘はらざる事
- 一御送附の義金は東京小石川小日向水道町木場銀行支店へ保管を依頼す
- 一義金は成べく事務所へ宛て御送附を乞ふ又は御便宜に依り直接銀行へ御送附相成候も差支なし
- 一領收は「加持世界」「智嶺新報」誌上にて報告すべし
- 一教科書の配布は福島縣廳へ依託す
- 一義捐金のメ切は三月二十日迄とす

以上

# 東郷大將紀念會の記

鹿兒島高等女學校四年乙組 牧 野 富 子

旅順に日本海に連戦連捷其の名を世界にとゝろかしたまへる東郷大將、實に君は三才の童子と雖其の名を知らざるはなし、又一度大將の名を聞きては欽慕せざるはなし、これ大將の徳高く義勇の心ふかければなるべし、あゝ大和男子の模範とすべきこの人物、そも如何なるところに生ひ出で如何なるところに人となられしか、これ我等の日々通ひなれたる學やこの園生こそ即ち大將のうふてゑあげられし所なりとかや、されば我が校にてはこの勳たかき東郷大將のたん生の地を明にし、以て大將の異功を千代よろつよまでも傳へんと十一月廿三日常磐なる松を植ゑかたへに碑をたて、大將のたん生地なるを記したり、こゝに於て

紀念式を行ひ後余興として學友會は開かれたり、例によりて談話音楽文藝の三部をひらき、午後よりは運動部始まる、例よりこの日は勇氣百倍したらんか、常に足よわき吾もけふは一等のかずにいりにしぞをかしかりける。  
あゝ實に鹿兒島は英雄の出身地とも云ふべく、前には大久保西郷共にこの地に出で、其の名をあげたり、今又東郷大將我が學やより出づるに及んで亦我等の責任かるしと云ふべからず、抑も我が日本は露西亞と戦ひ戰捷國として其の名を世界に輝かせりと云へども勝てかふとの緒をしめよの名言に遭遇せるは即ち現世の日本ならむ、されば未來に於て良相たり良妻となり子女を養成する我等はますゝこの鹿兒島をして英雄の出生地たらしめざる可からず

◎新年の雜誌界

▲女子の友 (一七四號)

相變らず多方面に亘りて材料豊富、戦後の經營は此誌上にも絶叫せらるゑに角女學雜誌中に於ては重きをなすべし

▲明治の家庭 (第二卷第一號)

口繪の西洋畫頗る好評他は別段の事もなし

▲明治の婦人 (第一卷三號)

發刊以來日淺けれども新年號は中々よく整頓せられたり、内容は修養的文學的に稍多く傾けり、最初の主張を實現せんには今少しく實用的方面に重きを置くの必要なさか、

▲日本の家庭 (第二卷第五號)

挿繪の數多きと用紙のよきとは家庭雜誌中の隨一である、そして印刷が色まざりなので大層賑やかに見える、新年號からは頁數も少し増して、子供欄など設けられた、同文館發行だけありて疏石に印刷の値があると見えたと、右の外、女子と家庭とに關する刷物は數限りがないけれどもあまりくだくしければばぶきつ、

新刊案内

▲女子文藝 第一卷第一號 毎月一回一日發行 定價一冊金拾錢

戦後の經營が雜誌界に迄も及びたる中に、女子の理想的修養を目的としては先に明治の婦人あり、今また家庭に趣味を供給し併せて女子の修養に資せんとする希望を以て本誌は生れたり、論戰には高嶋平三郎氏の家庭教育雜觀、鹽井雨江氏の家庭の缺點などあり、其他家庭、文藝、雜錄、女子文藝、等の諸欄、材料豊富にして面白し、口繪と挿繪との數多きは讀者に受けよかる可し

會報

明治卅九年一月入會者

北海道釧路港浦見町

岩手縣盛岡市内丸十三番戸

臺灣嘉義小學校

岡山縣岡山市上西川

三河國豊橋町東八丁九丸

愛媛縣松山市久保町四〇

岡山縣兒島郡長瀬村大字大畠

萬澤初子  
荳場久惠  
上野喜一郎  
山根夏  
海寶ちばを  
濱とみ  
氷山香

備前國岡山市西中山下深抵幼稚園

越後國岩船郡關谷村下關

岡山縣備中國玉嶋町

P. O. Box 1075 Seattle Wash. U. S. A.

會費領收 自明治三十八年十二月十八日  
至明治三十九年一月廿七日

金額 年 月 日

|     |             |
|-----|-------------|
| 一〇  | 三八、一二       |
| 一〇  | 三八、一二       |
| 五〇  | 三八、一二—三九、四  |
| 五〇  | 三八、八—三八、一二  |
| 二〇〇 | 三七、五—三八、一二  |
| 一〇〇 | 三八、一一—三九、八  |
| 二〇〇 | 三七、一一—三九、六  |
| 一〇〇 | 三八、七—三九、四   |
| 七〇  | 三八、七—三九、一   |
| 一〇  | 三八、九        |
| 一〇  | 三八、五        |
| 二一〇 | 三七、四—三八、一二  |
| 四〇  | 三八、九—三八、一二  |
| 一二〇 | 三八、一—三八、一二  |
| 三〇  | 三八、一〇—三八、一二 |
| 一一〇 | 三八、一二—三八、一二 |
| 一二〇 | 三八、一二—三九、一〇 |

|      |     |     |      |      |      |      |     |      |      |       |      |     |      |      |      |      |     |
|------|-----|-----|------|------|------|------|-----|------|------|-------|------|-----|------|------|------|------|-----|
| 小幡まさ | 木内成 | 和田實 | 吉川さい | 用瀬嘉代 | 岩川いさ | 萱場久恵 | 東條順 | 廣瀬まさ | 土井たま | 船木やすえ | 中尾幾重 | 東基宮 | 中村五六 | 小松ちか | 下田たづ | 根來政衛 | 谷久萬 |
|------|-----|-----|------|------|------|------|-----|------|------|-------|------|-----|------|------|------|------|-----|

|     |             |
|-----|-------------|
| 六〇  | 三八、七—三八、一二  |
| 六〇  | 三八、七—三八、一二  |
| 二〇〇 | 三七、八—三九、三   |
| 一二〇 | 三八、三—三九、二   |
| 一二〇 | 三八、一—三八、一二  |
| 一〇〇 | 三八、三—三八、一二  |
| 六〇  | 三八、七—三八、一二  |
| 二〇  | 三八、四—三九、三   |
| 一〇〇 | 三八、七—三九、四   |
| 七〇  | 三八、六—三八、一二  |
| 二〇  | 三八、七—三九、六   |
| 五〇  | 三八、九—三九、一   |
| 三〇  | 三八、九—三八、一一  |
| 二〇  | 三八、一—三九、一二  |
| 二〇  | 三八、一—三八、一二  |
| 一〇〇 | 三八、八—三九、五   |
| 五〇  | 三八、一〇—三九、二  |
| 二〇  | 三八、一一—三八、一二 |
| 一〇〇 | 三八、一〇—三九、七  |
| 一〇〇 | 三八、四—三九、一   |
| 一五〇 | 三八、二—三九、四   |
| 一五〇 | 三八、一—三九、三   |
| 六〇  | 三八、一—三九、六   |
| 一〇〇 | 三八、一二—三九、九  |

|      |      |       |       |      |      |      |       |      |      |      |      |       |      |      |      |     |     |     |     |     |       |       |      |
|------|------|-------|-------|------|------|------|-------|------|------|------|------|-------|------|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|------|
| 岡本ふん | 阪井ぬい | 白樫よしの | 菊地のりよ | 石井しげ | 下瀬龍野 | 須子とみ | 清水常次郎 | 木村茂枝 | 中屋とみ | 木原いと | 菅野きし | 鹽見かめ代 | 桑邨ます | 久場つる | 八阪さだ | 大川浜 | 福田米 | 奥宮貞 | 清水光 | 宮地榮 | 宮地ますえ | 上野喜一郎 | 高橋さき |
|------|------|-------|-------|------|------|------|-------|------|------|------|------|-------|------|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|------|

●見よ見よ、小學教員必讀の雜誌

一教授界は小學教育の實際を研究し并に其便宜を計るを目的とせる研成會の機關なり  
一全國小學教員に眞摯なる同情を表し其の好伴侶たらしむことを勉むるは唯一教授界なり  
一教授界を直接購讀の方は研成會員となり教育研究學科講習其他の便宜を有す(委細は會則を見よ)

第四卷  
第一號  
第一月發行

教授界

- 目 要
- ▲島根縣重要物産精圖並解説
  - ▲小學教員の時事
  - ▲修身科の宗旨
  - ▲戦後の體育
  - ▲國民教育上の大問題
  - ▲小學教育に對する希望
  - ▲體育の眞價に就いて
  - ▲日電戦争の我生徒に與へし教訓
  - ▲井上文學博士
  - ▲山根日本醫學學校長
  - ▲機江華中學學校長
  - ▲鈴木高女學校校長
  - ▲教授上緊要なる問題
  - ▲平假名片假名採用の良否
  - ▲國定算術書使用上の注意
  - ▲精神の訓練の二方面
  - ▲遊戲教案
  - ▲補習地理教授細案
  - ▲文部省教員檢定試験問題解答
  - ▲其他實驗的奏効的の文稿十數篇
  - ▲土川四谷第一小學校校長
  - ▲金成四谷第三小學校長
  - ▲中川東京遊戲法研究會講師
  - ▲大元愛媛師範訓導生

一冊の本でどんな種類も残らず知るところが出来る本は此筆記録

東京遊戲法研究會講師 伴 茂 樹 先生講演  
東京府師範學校遊戲擔任 中 川 濟

學校家庭遊戲法講習筆記録

定價金參拾五錢  
郵税金四錢

東京市内私立小學三百二十三校既に採用實施本會第二回講習會の料として學校家庭遊戲法

開講茲に十月を告げ筆記録種目は東京元々堂發行 國定小學讀本唱歌集に據り 國定歌遊び一種を十

中心とし 表情競技行進 舞蹈 等新案のものから實際に講習を受けるが如く、獨りに夫等試験に就て實施上の諸種注

意談を漏らす筆 此筆記録を機邊に舞踏を演じ 或は行進或は表情識らす 警齊は活舞臺 愉快!!!

後付の一



# 心の花



編輯主任

佐々木信綱



第十卷第三 (三月一日發行)

- せめてはぐさ
- 景樹の愛せし花
- 萬葉集中の花
- 近世歌人逸話
- 嫁入車(小説)
- 新式教授法(喜劇)
- 景樹の慣用的修辭
- 御墓の薔薇
- 短詩三十二篇
- 紅梅御殿(小説)
- 凱旋(脚本)
- 邂逅(譯詩)
- 麥畑
- ストウ女史
- おぼろ夜
- 坑夫
- 竹柏會詠草
- 河舟

△定價一冊金拾三錢

半年金七拾五錢

日本橋區本石町一ノ一

竹柏會出版部

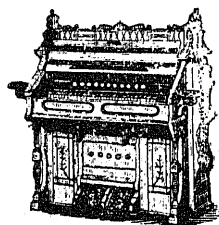
森上 鷗 井上 盛 鴻巣 學 井上 學 大塚 楠 藤澤 文 彌富 濱 三浦 文 吉野 臥 西岡 雨 新井 泉 河村 錦 片山 廣 松本 信 石橋 千 蒲生 直 竹柏 會 佐々木 信綱

## フレーベル會規則

- 第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハフレーベル會ト稱シ東京ニ置ク
- 第三條 會員タルントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保育ニ篤志ナルモノニシテ會員ノ紹介ヲ經ベシ
- 第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ贖出スベシ
- 第五條 會聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ
- 第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ
  - 一 總會 毎年四月二十一日之ヲ開キ保育ニ關スル演説、談話、保育多列品幼兒成績物展覽會、會務ノ報告、幹事ノ選舉等ヲナス會日ハ會長ノ意見ニヨリ之ヲ變更スルコトアルベシ
  - 一 常會 毎年二月、六月、十月、十二月ノ第一土曜日之ヲ開キ保育ニ關スル演説、談話、協議、實驗等ヲナス
  - 一 組合會 會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスル者ヲ以テ組織ス但シ別ニ組合會規約ヲ定メテ會長ノ承認ヲ經ルモノトス
  - 一 雜誌發行、毎月一回雜誌ヲ刊行シ之ヲ會員ニ配布ス
- 第七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
  - 會長 一人 會務ヲ總理ス
  - 主幹 一人 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
  - 幹事 十人 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
  - 評議員 若干人 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス
- 第八條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第九條 主幹ハ會長ノ特選トス
- 第十條 幹事ハ會員ノ互選トシ其任期ヲ二ケ年トス
- 但シ毎年半数ヲ改選スルモノトス
- 第十一條 評議員ハ會長ノ特選トス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應ジ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ルコトアルベシ
- 第十三條 此規則ハ會員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラザレバ變更スルコトヲ得ス

## 謹告

戦後の教育的經營は幼稚園をし  
て奮起せしむるものあり、本會は  
實に其指導者たる可き重責を荷  
ふ、從つて其機關雜誌たる本誌は  
年と共に其内容を精選し郵税を  
輕減し其他諸種の改良を實行せ  
り讀者諸君希くは益自重自信以  
て我保育界の爲めに盡されんこ  
とを。

[illegible]

山葉製風琴

保險附一

[illegible]

山葉製洋琴

種各 上以圓百參金

ンリ オイ ア ヴ 製木鈴

[illegible]

●柏來洋琴 參百圓以上參千圓迄各種  
●柏來風琴 百圓以上至五百圓迄各種  
●樂隊用陸軍樂用吹奏樂器等各種  
●戰隊紀念國旗印銀笛數種  
●八人組織簡易吹奏樂器一組金參拾圓  
●ピアノ、オルガン 調律修繕應需  
●右の外手風琴、ハルモニカ 柏來フラジオ  
●ツト各樂器附屬品、和洋音樂書各種郵券貳錢御  
●送附あらば美麗なる目錄進呈す

九二五橋新話電  
ヨキ號略信電

店器樂社商益共

東京市京橋區  
竹川町三十番地